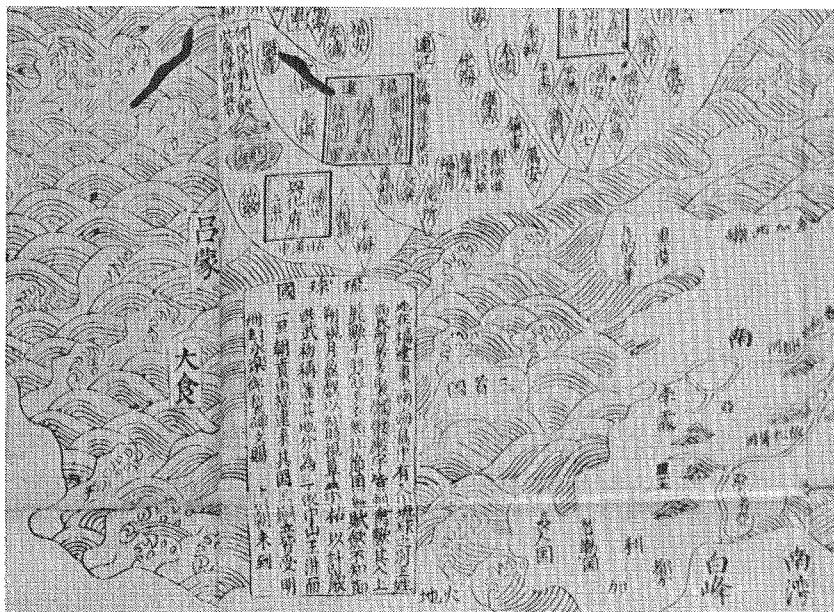


ISSN 0385—0293

# 沖縄県立博物館年報

No 25



1992

沖縄県立博物館

# 序

県民の長年の夢であった首里城正殿の完成と首里城公園の公園が、いよいよ今年の11月3日に決まりました。文化観光立県をめざす本県の夜明けと言えましょう。このような状況の中で、沖縄の歴史と文化を展示する当館の役目はますます重要になってきます。

そこでその内容の充実のために、平成3年度は次のような事業を行いました。

5月14日から26日にかけて、前年度に寄贈・購入・収集しました資料を公開する恒例の「新収蔵品展」を開催しました。寄贈資料の中には、神奈川県在住の安居清道氏から寄贈された「江戸上り行列図」があり、これは現存では最も古いとあって注目を集めました。

特別展として、10月15日から12月1日まで「アジアの祭りと芸能—仮面と音楽—」を開催し、2万人余の見学者がありました。企画展として、8月に「沖縄のチョウ」展、9月に「壺屋の陶工遺作」展、2月には「琉球の香り・あわもりの歴史と文化」展を開催し、好評を博しました。

当館が特に力を入れて取り組んでいる移動博物館は15回目をかぞえ、竹富町の西表島大原で開きました。

一方、伝統ある博物館の文化講座は4月で第200回目をむかえ、佐々木高明氏に「稻作の起源と伝来」と題し記念講演をして頂きました。引き続き、3月の第211回まで実施しました。

沖縄県立博物館新館建設委員会は県外先進博物館の視察、県立博物館の現施設視察、敷地予定地の現状視察などを行いつつ、検討会議を重ねました。

1月から3月まで、当館敷地周辺の石垣復元事業の一環として、旧中城御殿関係の基礎資料の収集調査を行いました。4月からは発掘調査が始まり、11月にむけて石牆復元工事が行われます。

本年度は復帰20周年記念の年にあたり、当館でも大きな事業が目白押しです。

6月から7月にかけて「古代メキシコ至宝展」、8月の「沖縄の貝類～海からの贈り物～」、10月から12月の「琉球王国～大交易時代とグスク～」、1月から2月の「尚家継承琉球王朝文化遺展」の4つの特別展、2月には企画展として「謝花雲石展」があります。

今後とも、特別展や企画展、文化講座などの博物館活動を充実させていきたいと思いますので、なお一層のご助言、ご協力をお願いいたします。

平成4年（1992）6月

沖縄県立博物館長 宜保 榮治郎

# 目 次

序.....	館長 宜保 榮治郎
I 概 要	
1 沿 革.....	5
2 施設・設備.....	7
3 予 算.....	9
4 組 織.....	10
II 入館者数	
1 入館者数.....	12
2 県内外児童生徒学生団体見学者.....	15
III 展示活動	
1 常設展.....	17
2 特別展.....	20
3 企画展.....	24
4 移動博物館.....	34
IV 教育普及活動	
1 活動の概要.....	37
2 教育普及の取り組み.....	37
3 博物館文化講座.....	40
V 調査研究等の活動	
1 調査研究.....	42
2 著作論文.....	44
3 講演等.....	45
VI 収蔵資料	
1 収蔵資料現在高.....	49
2 1991(平成3)年度収蔵資料.....	49
3 1991(平成3)年度収蔵資料目録.....	50
4 所蔵国県指定文化財.....	52
VII 刊行物.....	
VIII その他の活動	
1 資料貸出.....	54
2 熏蒸処理.....	54
3 沖縄県立博物館協議会.....	54
4 沖縄県博物館協会.....	55
5 沖縄県立博物館友の会.....	55
6 博物館実習.....	57
IX 新館建設事業.....	
X 日誌抄.....	
XI 関係法規抄録.....	

※ 表紙写真：大明九辺萬国人跡路全図（部分）

# I 概 要

## 1 沿 革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年には「琉球政府立博物館」と改称。また、41年には現敷地に新館を建設して移転する。47年の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

### —〔主な事項】—

- 昭和21年（1946） 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。
- 昭和22年（1947） 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。
- 昭和28年（1953） 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。
- 昭和30年（1955） 9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称する。
- 昭和40年（1965） この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入する。
- 昭和41年（1966） 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。
- 昭和47年（1972） 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。
- 昭和48年（1973） 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。
- 昭和51年（1976） 4月、創立30周年記念式典を行う。
- 昭和55年（1980） 1月、特別展「日本の美——救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち——大恐竜展」開催。
- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美——日本民芸館藏」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年（1982） 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展——熊本の歴史と文化」を開催する。
- 昭和58年（1983） 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美——風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。
- 昭和60年（1985） 11月、特別展「グスク——グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催す

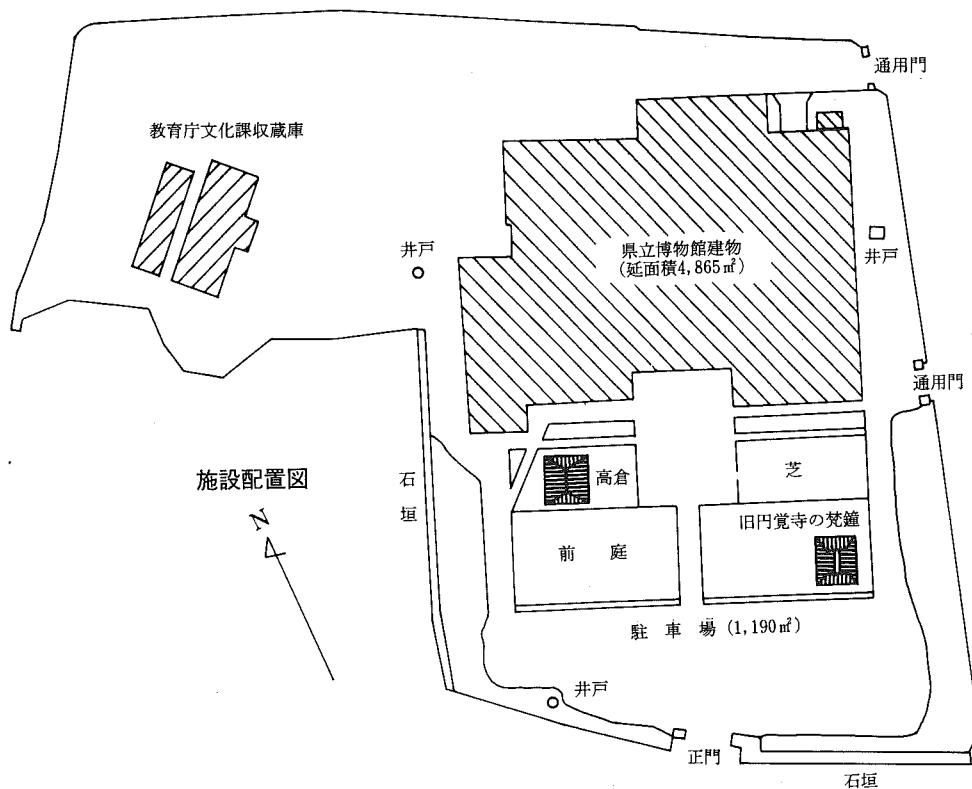
- る。
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて——大嶺薰コレクション」を開催する。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画－物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展—ある首里士族の400年」開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」開催する。
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」開催する。
- 平成元年（1989） 11月、特別展「インドネシアの更紗展」を開催する。
- 平成2年（1990） 1月、特別展「大アンデス文明展」を開催する。
- 平成3年（1991） 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」を開催する。

### 歴代館長

〔東恩納博物館〕	〔首里博物館〕
大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	豊平 良顕（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）

原田 貞吉（昭和28・3～30・5）  
 山里 永吉（昭和30・8～33・8）〔琉球政府立博物館〕  
 金城増太郎（昭和33・9～36・12）  
 大城 知善（昭和37・2～44・11）  
 外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕  
 大城徳次郎（昭和56・4～58・3）  
 大城 立裕（昭和58・4～61・3）  
 大城 宗清（昭和61・4～平4・3）  
 宜保榮治郎（平4・3～）

## 2 施設・設備



### 施設規模

●敷地面積	.....	11,267 m <sup>2</sup>
●建物のべ面積	.....	4,865 m <sup>2</sup>
1階及び講堂部分		2,893
2階		1,571
地階		401
●展示面積	.....	1,590 m <sup>2</sup>
1階		632
2階		958
●ロビー面積	.....	256 m <sup>2</sup>
●収蔵庫面積	.....	677 m <sup>2</sup>
●駐車場面積	.....	1,190 m <sup>2</sup>
●庭園面積	.....	1,612 m <sup>2</sup>
●講堂	.....	632 m <sup>2</sup>
客席数630席(2階240)		

### ●空調機能力

ヒートポンプ式チーリングユニット	125,000kcal/h × 2機
エアハンドリングユニット	7機
パッケージ型エアコン	56,000kcal/h × 1機
	28,000kcal/h × 1機
	20,000kcal/h × 2機
	8,400kcal/h × 1機

### ●変電室

電灯	1Φ 3W 30KVA × 1機
電灯・動力	3Φ 4W 100KVA × 1機
動力	3Φ 3W 250KVA × 1機
●契約電力	..... 235kw

## 建物平面図および室名・面積

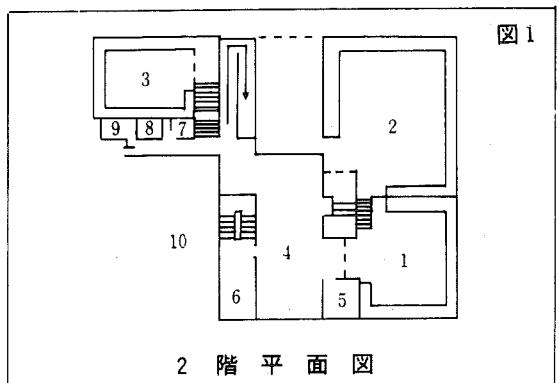


図1

2階平面図

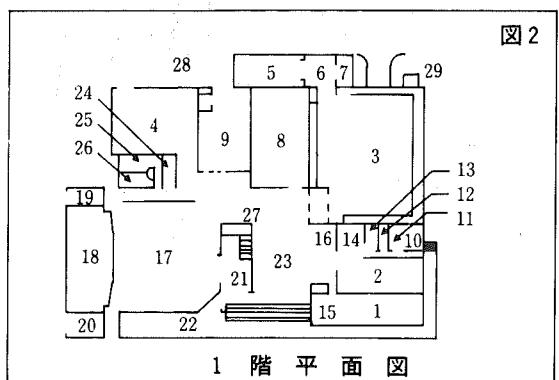


図2

1階平面図

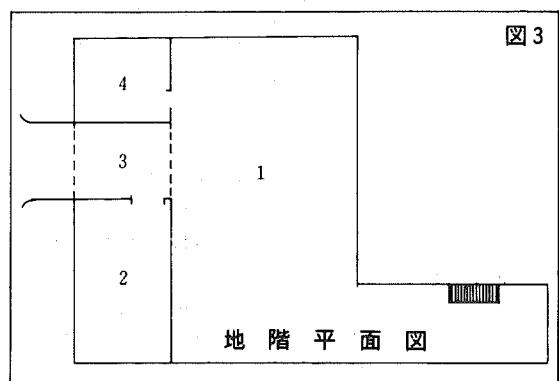


図3

地階平面図

<2階>

番号

1	美術工芸展示室	265m <sup>2</sup>
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	ホール中2階	61

<1階>

番号

1	事務室	115m <sup>2</sup>
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	首里城正殿模型	18
17	講堂(客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	案内コーナー・友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5

<地階>

番号

1	収蔵庫	285m <sup>2</sup>
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

### 3 予 算

#### 平成 3 年度博物館費（決算）

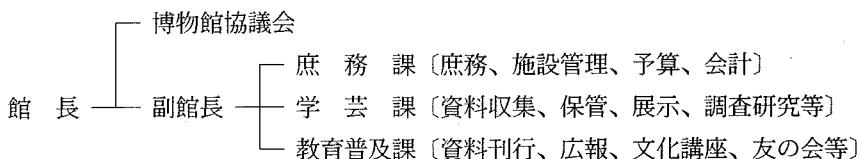
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	131,100	0	131,100
賃金	620,400	1,134,240	1,754,640
報償費	394,000	1,028,220	1,422,220
旅費	3,409,487	4,640,797	8,050,284
(普通旅費)	2,259,203	3,459,868	5,719,071
需用費	20,955,882	15,214,611	36,170,493
消耗品費	875,806	1,484,593	2,360,399
燃料費	49,129	0	49,129
(食料費)	206,050	118,740	324,790
印刷製本費	2,474,414	11,046,578	13,520,992
光熱水費	15,585,465	0	15,585,465
修繕費	1,765,018	2,564,700	4,329,718
役務費	980,861	8,967,018	9,947,879
通信運搬費	900,961	8,465,482	9,366,443
手数料	61,350	0	61,350
筆耕翻訳料	0	11,536	11,536
火災保険料	0	490,000	490,000
自動車損害保険料	18,550	0	18,550
委託料	14,011,552	9,852,374	23,863,926
使用料及び賃借料	974,049	0	974,049
工事請負費	6,239,740	0	6,239,740
備品購入費	7,690,395	1,498,135	9,188,530
負担金補助及交付金	65,000	0	65,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	55,491,366	42,335,395	97,826,761

#### 平成 3 年度歳入状況（決算）

	常設展	特別展	合計
博物館使用料	6,709,770	13,721,640	20,431,410
建物使用料	57,352	0	57,352
雜入	124,296	0	124,296
合計	6,891,418	13,721,640	20,613,058

## 4 組織

### (1) 機構



### (2) 職員構成

平成4年4月1日現在

職名	氏名	担当業務
館長	宣保 榮治郎	博物館業務の総理に関すること。
副館長	西平 守勝	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課と調整に関するこ と。
庶務課長	山里 盛直	庶務課の統轄。庶務、施設管理、予算、事業に関するこ と。
主査	上江洲 キク	予算決算、会計事務に関するこ と。
副主査	宣保 光子	歳入、庶務、人事、福利厚生に関するこ と。
技師	岸本 実	施設設備の保守管理に関するこ と。
学芸課長	大城 将保	学芸業務の統轄、歴史資料、新館建設事業及び沖博協に 関すること。
充指導主事	嵩原 建二	自然史、年報、紀要、写真撮影及び沖博協に 関すること。
学芸員	萩尾 俊章	歴史資料、資料保存及び総合調査に 関すること。
学芸員	与那嶺 一子	美術工芸、資料受入、整理・分類及び資料貸出に 関すること。
指導主事	前田 真之	新館建設事業及び歴史資料に 関すること。
教育普及課長	当真嗣 一	教育普及業務の統轄及び考古資料に 関すること。
充指導主事	上門 清春	博物館学習、団体見学の調整及び自然史に 関すること。
充指導主事	瑞慶山 昇	教育普及、文化講座、写真撮影及び美術工芸に 関すること。
専門員	大城 学	教育普及、移動博物館、講演会及び民俗に 関すること。

非常勤職員 (委託業務)	氏名	担当業務
教育普及監視	上原 敏子	展示の解説及び教育普及に 関すること。
"	西平 節子	受付及び監視に 関すること。
"	東 美智子	" "
"	金城 民子	" "
"	小橋川 敏子	監視に 関すること。
"	喜屋武 トシ子	"
"	比嘉 春子	"
清掃員	渡慶次 柴宝	清掃に 関すること。

博物館友の会	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

平成4年4月1日

職 名	氏 名	適 要
<b>&lt;転出&gt;</b>		
館 長	大 城 宗 清	定 年
庶 務 課 長	大 村 光 仁	文化課管理係長へ
主 事	西 江 幸 枝	中頭教育事務所主事へ
技 師	名嘉真 盛 和	総務部消防防災課技師へ
指 導 主 事	千木良 芳 範	文化課指導主事へ
指 導 主 事	津波古 聰	那覇教育事務所指導主事（首里城公園）へ
<b>&lt;転入&gt;</b>		
館 長	宜 保 榮治郎	文化課長から
庶 務 課 長	山 里 盛 直	中頭教育事務所主査から
主 査	上江洲 キ ク	図書館主査から
技 師	岸 本 実	総務部管財課技師から
指 導 主 事	嵩 原 建 二	文化課指導主事から
指 導 主 事	瑞慶山 昇	本部中学校教諭から
指 導 主 事	前 田 真 之	漢那小学校教諭から

(4) 博物館協議会名簿

	委 員 名	所 属	職 名
学 校 経 驚 者	翁 長 自 修 新 城 和 治 金 城 正 篤 平 敷 令 治 嵩 元 政 秀	琉大教育学部（美術工芸） “ “ （自然） “ 法文学部史学科（歴史） 沖国大文学部（民俗） 興南中学校（考古） (副会長)	教 授 助 教 授 教 授 “ 校 長
学 校 教 育	浦 崎 修 子 仲宗根 忠 八	首里中学校 那覇工業高校	“ “
社会教育	高 良 房 子 屋 田 直 勝 新 城 紀 秀	沖縄県婦人連合会 沖縄県P T A連合会 沖縄県社会教育委員 (会長)	理 事 長 会 議 長

任期：平成2年5月1日～平成4年4月30日

## II 入館者数

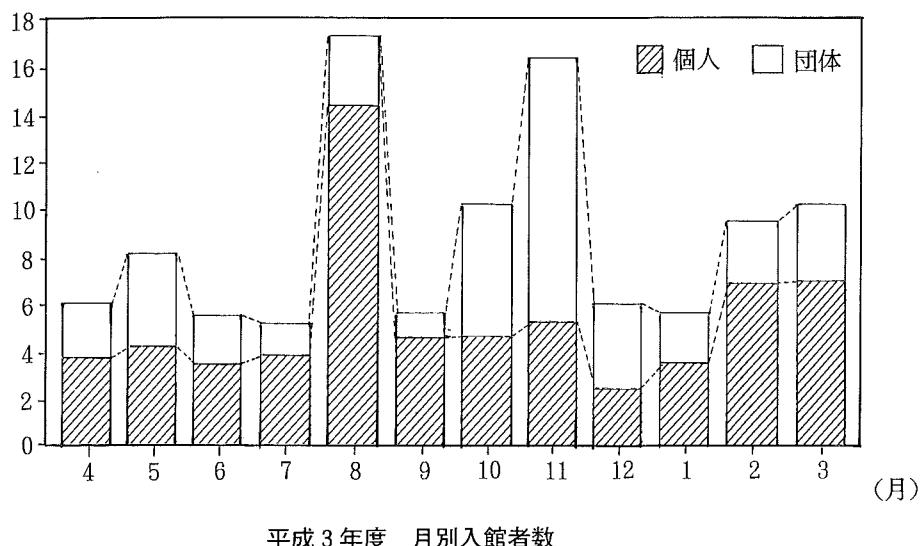
1. 入館者数 (平成3年4月1日～平成4年3月31日) 特別展等を含む  
月別入館者数

	個 人 入 館 者 数		團 体 入 館 者 数						人 館 者 總 數		合 計	開 館 日 數	1 日平均入館者数	
	大 人		高 大 生		小 中 生		合 計		大 人		合 計			
	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)		
3年	4月	3,276 (72)	158 (1)	371 (2)	3,805 (74)	372 (114)	923 (1)	976 (7)	2,271 (121)	3,648 (186)	1,081 (0)	1,347 (9)	6,076 (195)	24 261
5月	3,665 (179)	340 (0)	248 (0)	4,253 (179)	635 (279)	1,216 (20)	2,031 (2)	3,882 (301)	4,300 (458)	1,556 (20)	2,279 (2)	8,135 (480)	25 345	
6月	3,200 (94)	79 (0)	191 (0)	3,470 (94)	570 (178)	470 (38)	1,023 (0)	2,063 (216)	3,770 (272)	549 (38)	1,214 (0)	5,533 (310)	25 234	
7月	2,978 (115)	267 (0)	590 (296)	3,835 (411)	1,012 (188)	91 (0)	141 (84)	1,244 (192)	3,990 (223)	358 (0)	731 (380)	5,079 (603)	21 271	
8月	8,089 (243)	1,336 (14)	5,095 (666)	14,440 (863)	1,178 (217)	864 (0)	894 (396)	2,846 (613)	9,217 (460)	2,200 (14)	5,869 (1,002)	17,236 (1,476)	26 722	
9月	3,805 (256)	474 (7)	333 (23)	4,612 (286)	124 (60)	668 (0)	177 (37)	969 (97)	3,929 (316)	1,142 (7)	510 (60)	5,581 (383)	21 284	
10月	4,033 (226)	277 (0)	284 (6)	4,574 (232)	974 (425)	1,922 (11)	2,702 (32)	5,598 (468)	5,007 (651)	2,189 (11)	2,966 (38)	10,172 (700)	21 518	
11月	4,706 (227)	240 (0)	267 (0)	5,213 (227)	1,625 (699)	4,308 (0)	5,186 (578)	11,129 (1,277)	6,341 (926)	4,518 (0)	5,453 (578)	16,342 (1,504)	25 714	
12月	1,750 (81)	462 (0)	142 (0)	2,354 (81)	473 (155)	2,214 (0)	912 (30)	3,599 (185)	2,223 (236)	2,676 (0)	1,054 (30)	5,953 (266)	16 389	
4年	1月	2,983 (76)	193 (0)	181 (1)	3,357 (77)	636 (39)	969 (75)	784 (0)	2,089 (164)	3,619 (165)	1,162 (75)	665 (1)	5,446 (241)	21 271
	2月	5,978 (439)	587 (1)	213 (0)	6,778 (440)	844 (105)	456 (41)	1,270 (58)	2,570 (204)	6,822 (544)	1,043 (42)	1,483 (58)	9,348 (644)	24 416
	3月	5,289 (130)	964 (0)	611 (0)	6,864 (130)	1,465 (0)	1,044 (24)	3,241 (477)	6,021 (383)	2,429 (0)	1,655 (24)	10,105 (607)	25 428	
	合計	49,702 (2,138)	5,377 (22)	8,476 (934)	9,185 (2,692)	15,566 (185)	16,750 (1,438)	41,501 (4,315)	58,887 (4,830)	20,943 (207)	25,226 (2,372)	105,066 (7,409)	總日数	
	総計	51,840	5,399	9,410	66,649	11,877	15,751	18,188	45,816	63,717	21,150	27,598	112,465	274 410

## 曜日別入館者数

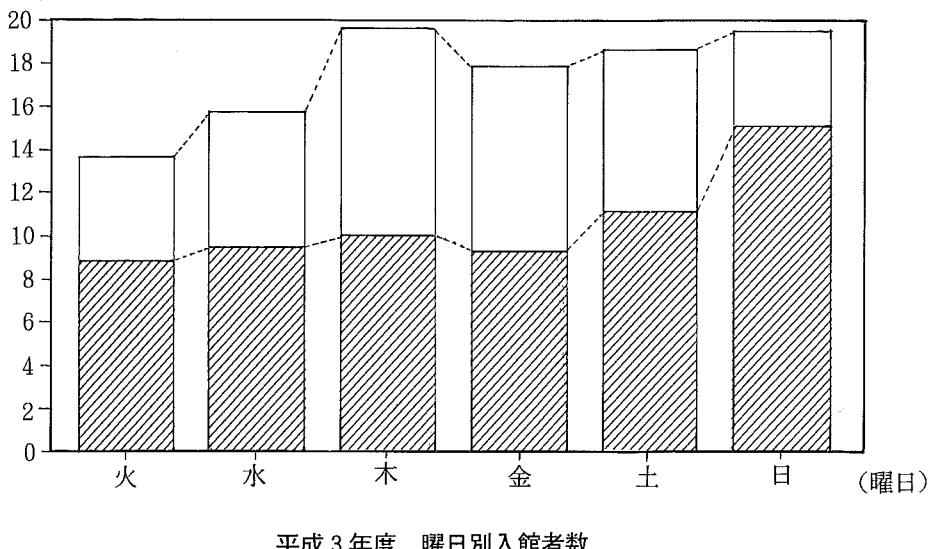
	個 人 入 館 者 数		團 体 入 館 者 数						人 館 者 總 數		合 計	開 館 日 數	1 日平均入館者数	
	大 人		高 大 生		小 中 生		合 計		大 人					
	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)		
月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 0	
火	6,811 (402)	768 (7)	1,178 (188)	8,757 (595)	1,135 (281)	1,657 (62)	2,050 (150)	4,852 (493)	7,946 (683)	2,425 (69)	3,238 (356)	13,609 (1,088)	45 327	
水	7,382 (292)	874 (7)	1,188 (151)	9,454 (450)	1,007 (538)	2,761 (0)	2,607 (536)	6,375 (0,074)	8,389 (830)	3,635 (7)	3,795 (687)	15,829 (1,524)	47 369	
木	7,937 (325)	926 (4)	1,140 (145)	10,008 (474)	1,756 (700)	3,642 (0)	4,277 (468)	9,675 (0,168)	9,683 (0,025)	4,568 (4)	5,417 (613)	19,678 (1,642)	47 454	
金	7,367 (287)	815 (0)	1,028 (171)	9,210 (458)	1,749 (567)	3,085 (20)	3,758 (176)	8,632 (763)	9,116 (834)	3,900 (20)	4,826 (347)	17,842 (1,221)	45 424	
土	8,926 (480)	873 (1)	1,295 (124)	11,064 (605)	2,031 (407)	2,574 (11)	2,946 (108)	7,551 (526)	10,957 (887)	3,447 (12)	4,211 (232)	18,615 (1,131)	45 439	
日	11,269 (352)	1,121 (3)	2,677 (157)	15,067 (512)	1,507 (199)	1,847 (92)	1,062 (0)	4,416 (291)	12,776 (551)	2,968 (95)	3,739 (157)	19,483 (803)	45 451	
合計	49,702 (2,138)	5,377 (22)	8,476 (934)	9,185 (2,692)	15,566 (185)	16,750 (1,438)	41,501 (4,315)	58,887 (4,830)	20,943 (207)	25,226 (2,372)	105,066 (7,409)	總日数	274 410	

単位・千



単位・千

■ 個人 □ 団体



## 団体入館者数

	県 内								県 外								国 内								合 計		
	大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計				
年 月	团 体 数	人 数																									
平成3年 4月	6	132	—	—	5	746	11	878	7	208	5	923	2	230	14	1,361	1	32	—	—	—	—	—	1	32	26	2,271
5月	12	513	2	120	11	905	25	1,538	2	96	6	1,086	14	1,126	22	2,318	1	26	—	—	—	—	—	1	26	48	3,882
6月	6	169	2	183	11	474	19	826	9	361	4	287	6	549	19	1,197	1	40	—	—	—	—	—	1	40	39	2,063
7月	7	206	2	32	4	93	13	351	8	710	1	39	1	48	10	797	1	96	—	—	—	—	—	1	96	24	1,244
8月	5	525	4	631	22	704	31	1,860	8	653	5	233	5	100	18	986	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49	2,846
9月	—	—	3	121	1	115	4	236	4	124	8	547	—	—	12	671	—	—	—	—	—	—	—	1	62	17	969
10月	8	402	1	47	30	2,123	39	2,572	13	498	12	1,875	6	576	31	2,949	3	74	—	—	1	3	4	77	74	5,598	
11月	14	665	4	172	66	4,629	84	5,466	18	968	24	4,136	3	452	45	5,556	—	2	—	—	2	105	2	107	131	11,129	
12月	3	266	—	—	4	462	7	728	7	207	5	2,214	14	450	26	2,871	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33	3,599
平成4年 1月	3	63	2	220	3	476	8	759	11	485	3	749	—	8	—	1,242	1	88	—	—	—	—	—	1	88	23	2,089
2月	4	141	1	29	10	1,268	15	1,458	19	660	3	427	—	2	22	1,089	2	43	—	—	—	—	—	2	43	39	2,570
3月	3	132	—	—	5	712	8	844	22	600	11	1,465	3	332	38	2,397	—	—	—	—	—	—	—	—	—	44	3,241
合 計	71	3,214	21	1,575	172	12,707	264	17,496	128	5,570	87	13,991	54	3,873	269	23,434	10	401	—	—	4	170	14	571	547	41,501	

## 移動博物館入館者数（竹富町・大原）

	小 人	大 人	合 計
6月7日			
6月8日	524	347	871
(両日)			

## 2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 11,331名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	13	松川小学校	156名	10	25	宮森小学校	136名	11	15	喜如嘉小学校	11名
	20	城北小学校	181名		25	金武小学校	104名	15	東江小学校	150名	
	20	松島小学校	186名		28	源河小学校	14名	16	屋部小学校	71名	
	27	天妃小学校	147名		29	西原東小学校	116名	16	真和志小学校	24名	
5	2	翔南小学校	113名		29	兼原小学校	137名	19	高原小学校	240名	
	2	中城小学校	94名		30	奥小学校	8名	19	安田小学校	14名	
	2	南風原小学校	134名		30	上本部小学校	50名	20	羽地小学校	99名	
	2	津嘉山小学校	164名		30	西表小学校	9名	20	佐敷小学校	77名	
	15	徳之島町立合同修学旅行	245名		30	宮島小学校	16名	20	崎本部小学校	13名	
	23	城辺小学校	49名		30	松田小学校	36名	20	仲里小学校	35名	
	23	多良間小学校	30名		30	兼次小学校	28名	21	Bob Hope Primary School	72名	
	24	西城小学校	59名		31	真喜屋小学校	23名	21	屋我地小学校	35名	
	24	下地 来間小学校	42名		31	安富祖小学校	42名	21	有銘小学校	18名	
	29	大田布、鹿浦小学校(鹿児島)	61名		31	美東小学校	157名	21	漢名小学校	29名	
	30	東小学校(平良市)	122名		31	清水小学校	46名	21	稻田小学校	27名	
	30	久松小学校	41名	11	1	伊江小学校	44名	22	奥間小学校	34名	
	31	佐良浜小学校	97名		1	米須小学校	102名	22	西小学校	50名	
6	1	前島小学校	28名		1	伊平屋小学校	18名	22	本部小学校	168名	
	4	鏡原、宮原小学校	52名		1	伊良部小学校	116名	22	大名小学校	153名	
	6	西辺小学校	44名		1	宮城小学校	25名	22	瀬喜田小学校	20名	
	7	伊良部小学校	81名		1	真壁小学校	66名	23	美里小学校	159名	
	8	福巒小学校	24名		1	久志小学校	18名	29	大北小学校		
	11	砂川小学校	46名		1	渡嘉敷小学校	6名	29	久高小学校	13名	
	14	南小学校	150名		2	安和小学校	18名	12	城西小学校	167名	
	19	面繩小学校(鹿児島)	31名		5	Amelia Borlact Intermed.School	68名	13	城北小学校	291名	
7	24	キンザー小学校	22名		5	与那国小学校	27名	17	城岳小学校	122名	
9	10	小碌小学校	118名		5	東小学校	19名	17	上間小学校	152名	
	20	Kinser Elementary School	76名		6	与那原小学校	125名	23	久茂地小学校	71名	
10	1	座間味小学校	26名		6	恩納小学校	47名	29	西原小学校	230名	
	3	意野城小学校	223名		6	あげな小学校	106名	2	泊小学校	160名	
	15	船越小学校	49名		7	嘉陽小学校	14名	8	上間小学校	152名	
	16	武蔵野小学校(東京)	88名		7	大岳小学校	45名	12	天妃小学校	144名	
	17	普天間小学校	143名		8	今帰仁小学校	78名	14	城西小学校	161名	
	18	中川小学校	16名		8	嘉手納小学校	135名	19	与儀小学校	109名	
	18	読谷小学校	103名		8	古堅小学校	126名	25	宇栄原小学校	240名	
	19	辻土名小学校	46名		9	名護小学校	134名	26	具志頭小学校	89名	
	22	糸満小学校	87名		9	宜野座小学校	54名	27	金武小学校	155名	
	23	城前小学校	97名		9	阿波連小学校	4名	28	真嘉比小学校	73名	
	24	与那原小学校	114名		10	知念小学校	4名	3	高良小学校	202名	
	24	嘉芸小学校	48名		12	安慶田小学校	30名	3	神森小学校	119名	
	24	高嶺小学校	63名		13	慶留間小学校	8名	7	松川小学校	163名	
	24	津嘉山小学校	151名		13	牧港小学校	161名	12	城南小学校	116名	
	25	久辺小学校	44名		14	津堅小学校	20名	14	坂田小学校	138名	
	25	南原小学校	44名		15	中原小学校	113名				
	25	具志川小学校	68名		15	塙屋小学校	18名				

(中学校) 4,828名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名		
4	21	喜界第一中学校(鹿児島)	88名	6	20	西合志中学校(熊本)	108名	11	9 関西学院中学校部(兵庫)	193名
	25	豊津中学校(福岡)	159名	6	21	不知火中学校(熊本)	118名	12	伊豆味中学校	43名
5	10	吉尾中学校(熊本)	20名	10	25	一の宮中学校(熊本)	162名	13	与勝中学校	296名
	11	白水中学校(鹿児島)	66名		25	浦添中学校	22名	13	昭和葉科付属中学校	141名
	11	赤木名中学校(鹿児島)	84名		16	大川中学校(鹿児島)	26名	14	知念中学校	97名
	12	名瀬中学校(鹿児島)	266名		20	小宿中学校(鹿児島)	98名	15	西南学院中学校(福岡)	201名
	14	成城学園中学校(東京)	43名		24	西合志中学校(熊本)	58名	21	津堅中学校	57名
	15	大野中学校(熊本)	35名		28	桜美林中学校(東京)	90名	22	山手学院中学校(神奈川)	80名
	18	金久中学校(鹿児島)	284名		30	南星中学校	273名	22	羽地中学校	157名
	25	住用中学校(鹿児島)	31名		30	奥中学校	19名	27	昭和薬科大学付属中学校	127名
	26	早町中学校(鹿児島)	54名	11	1	本部中学校	178名	12	第四中学校(熊本)	174名
6	6	三角中学校(熊本)	116名		6	読谷中学校	320名	20	立命館中学校(京都)	226名
	12	青海中学校(熊本)	54名		8	具志頭中学校	97名	3	成城学園	163名

(高等学校) 15,238名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	2	花園高校(京都)	261名	10	23	徳山商業高校(山口)	150名	11	30	佐世保工業高校(長崎)	38名
3	3	山陽女子高校(広島)	75名	25	小松市立女子高校(石川)	274名	12	1	須磨ノ浦女子高校(兵庫)	20名	
3	花岡高校(京都)	268名	25	羽田高校(羽田)	38名	10	大阪産業大学高校(大阪)	131名			
17	長野女子高校(長野)	317名	30	武蔵工大付属高校(東京)	77名	12	法政大学第二高校(東京)	337名			
25	秀英高校(神奈川)	35名	31	明治学院高校(大阪)	620名	12	常葉学園高校	12/12(静岡)	537名		
5	8	金沢西高校(石川)	469名	11	7	富士学院高校(山梨)	221名	13	大阪産業大学高校(大阪)	127名	
9	金櫻会高校(大阪)	481名	9	田部高校(山口)	123名	13	法政大学第二高校(神奈川)	13名			
18	国立音楽大学付属音楽高校	173名	13	進徳女子高校(広島)	403名	13	明徳高校(京都)	550名			
6	徳之島農業高校(鹿児島)	31名	13	中京高校(愛媛)	587名	19	同朋高校(愛知)	42名			
22	國土館高校(東京)	108名	14	読谷高校	27名	19	京都高校	225名			
29	加賀聖城高校(石川)	23名	14	菊地女子高校(熊本)	119名	21	京都女子高校(京都)	231名			
8	2	浦添高校～9/29	388名	15	泊高校	185名	1	21	南部農林高校	210名	
10	那覇西高校～8/30	90名	15	河北台高校(石川)	226名	24	大阪高等學校(大阪)	321名			
13	浦添高校～9/1	146名	22	有田工業高校(佐賀)	50名	2	18	東京農業大学付属高校	268名		
9	6	甲陵高校(山梨)	33名	24	大下学園紙漉高校(広島)	384名	19	大平高校	30名		
26	九州電気学園高校(福岡)	239名	26	佐賀中央工業高校(佐賀)	238名	26	多々良学園高校(山口)	144名			
10	3	美竹高校(山口)	129名	27	小倉高校(福岡)	233名	3	4	大阪商業大学付属高校(大阪)	484名	
7	東京高校(東京)	356名	28	内灘高校(石川)	432名	5	5	保善高校(東京)	340名		
19	聖学園高校(東京)	122名	28	湖南女子高校(神奈川)	546名	15	駒沢大学付属高校(東京)	473名			
22	戸塚高校(神奈川)	416名	29	尾山台高校(石川)	333名	29	山陽女子高校	48名			

(大学・専門学校) 1,226名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
5	2	鹿児島大学	21名	7	26	琉球大学	30名	11	6	大川看護学院	43名
7	沖縄国際大学	28名	9	3	獨協大学(埼玉)	27名	29	沖縄女子短期大学	24名		
12	琉球大学	97名	6	6	学習院女子短期大学(東京)	78名	1	24	琉球大学、台湾大学	20名	
6	8	国際ツーリム専門学校	62名	6	大阪外国语大学	30名	2	6	長野県農業大学校	29名	
16	沖縄学院	123名	10	10	神戸学院大学	25名	3	4	群山女子大学短期大学	105名	
20	福山市医師会看護専門学校	138名	28	東京医学技術専門学校	87名	25	25	神戸山手女子短期大学	48名		
7	6	慈恵青戸看護専門学校(東京)	41名	10	5	九州福祉医療専門学校	50名	27	鶴見大学(神奈川)	48名	
16	沖縄国際大学(留学生)	27名	23	沖縄キリスト短期大学	47名						

(特殊学校・その他) 1,329名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
5	10	熊本盲学校	28名	8	22	与那覇保育園	28名	11	26	勢理客保育園	25名
6	30	山口県聾学校	21名	9	18	エミール保育園	43名	27	報恩幼稚園	87名	
7	6	沖縄盲学校	4名	10	19	長崎県立ろう学校	14名	29	大平養護学校	60名	
17	光幼稚園	40名	11	2	那覇養護学校	9名	12	20	松島保育園	34名	
27	クリスチヤン教育センター幼稚園	31名	7	7	城西幼稚園	100名	2	13	つばみ保育園	44名	
8	6	長田保育園	68名	7	鏡が丘養護学校	20名	14	はなぞの保育園	20名		
7	当蔵保育所	44名	7	7	育英義塾幼稚園	74名	3	4	育伸中央幼稚園	97名	
14	たやか幼稚園	14名	7	7	ふれ愛保育園	70名	5	MOA沖縄保育園	60名		
15	みつわ保育園	27名	15	15	大育保育園	22名	12	みぎわ保育園	19名		
17	大育保育園	38名	19	19	浜川児童教育園	23名	19	報恩幼稚園	44名		
17	育伸中央幼稚園	31名	20	20	すきの子共同保育園	9名	27	長田学童保育所	15名		
21	おおぞら保育園	17名	20	20	花園学園	49名					

### III 展示活動

#### 1 常設展

常設展は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマに、歴史・自然史・美術工芸・民俗の4分野で構成されている。

1階には、第1室「歴史」展示室と第2室「自然史」展示室がある。2階には、第3室「美術工芸」展示室と第4室「民俗」展示室がある。2階ロビーは企画展示室をかねているが、ふだんは「大嶺薰コレクション」や「東南アジアの染織」などを展示している。

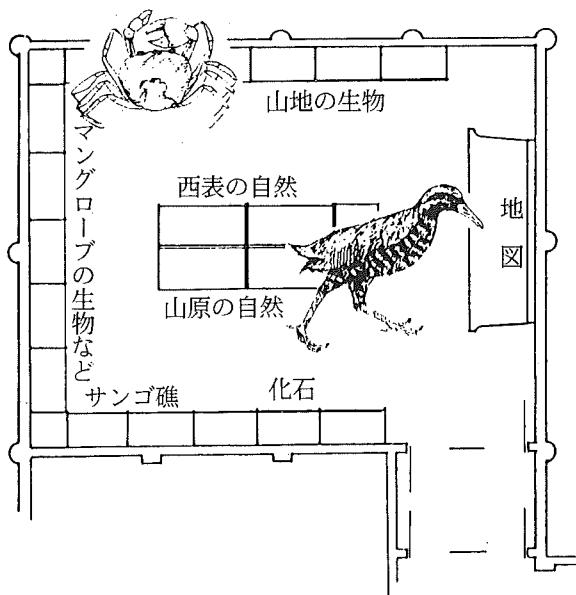
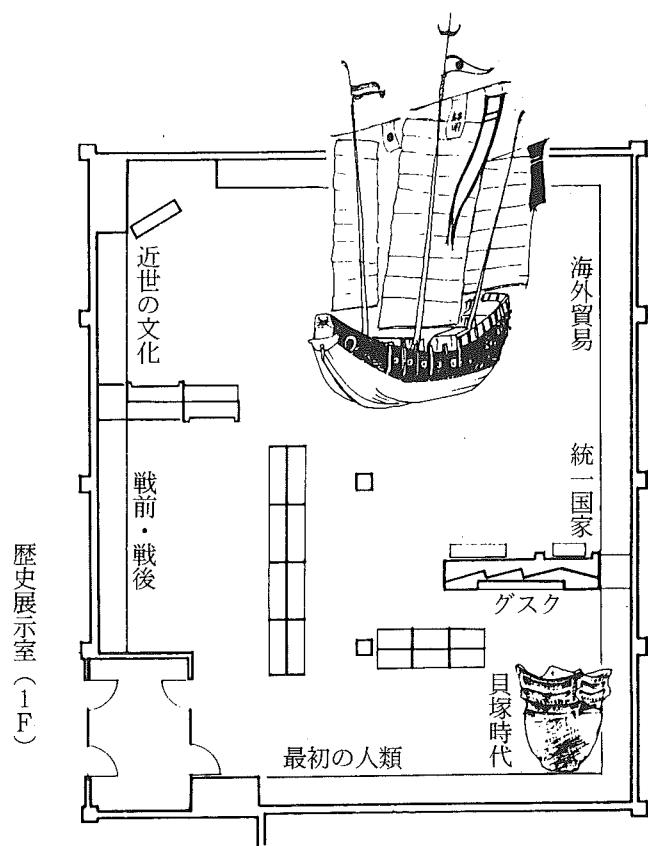
第1室「歴史」は、旧石器時代から現代までの沖縄の歴史を通史的な流れにそって展示している。港川人に代表される旧石器時代、そして九州縄文文化の南下に刺激されて独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代の展示がみられる。12世紀にはいると、地方の支配者である按司が群雄割拠してグスク時代がはじまる。やがて15世紀初頭には沖縄は統一されて琉球王国が誕生する。琉球は大交易時代の国際交流によって王朝文化の花を咲かせるが、やがて薩摩の支配下にはいり幕藩体制にくみこまれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和の世相、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまで沖縄歴史のユニークな諸相が展開されている。

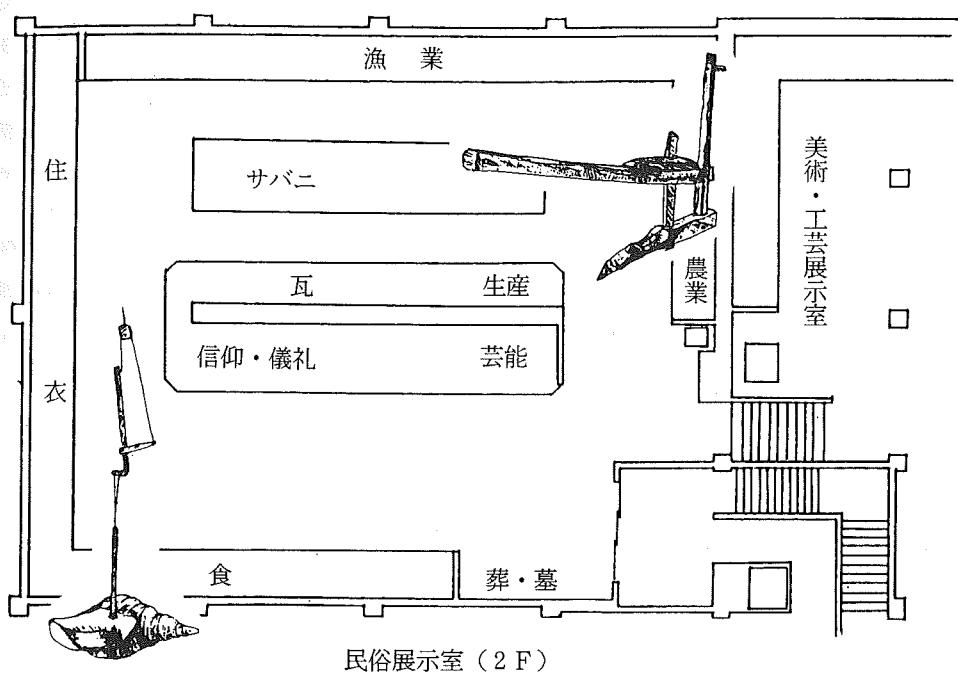
第2室「自然史」は、琉球列島の成立からはじまって亜熱帯地域にひろがる沖縄の自然について展示している。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナガコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれるほどに多様で貴重な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理して標本や写真で紹介している。とくに大自然の宝庫といわれるヤンバル（山原・沖縄本島北部）と西表島については特設コーナーをもうけて展示してある。

第3室「美術工芸」には、琉球王朝文化の輝きをしのばせる、絵画、書跡、染織、漆器、陶器などが展示されている。中国の影響をうかがわせる王府時代の絵画や書跡、絢・びん型・花織などの独特的な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦などの高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋の琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流によって生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

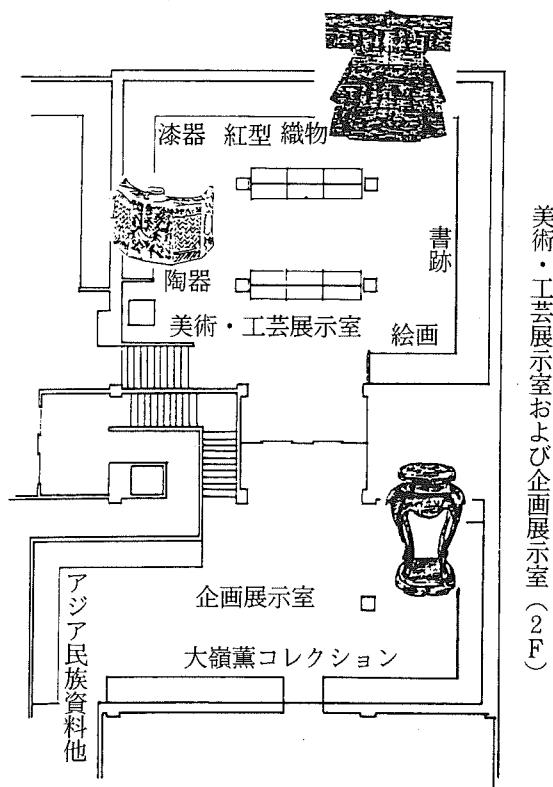
第4室「民俗」は、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などのコーナーに整理分類して展示している。これらの生活用品を通して、昔の人びとが工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。

なお、1階ロビーには、万国津梁の鐘（首里城正殿鐘）と龍柱の頭部、首里城正殿の模型をはじめ、王府時代の扁額なども展示されている。前庭には、高倉や円覚寺の鐘楼などの屋外展示もある。





民俗展示室（2 F）



美術・工芸展示室および企画展示室（2 F）

## 2 特別展

### 「アジアの祭りと芸能～仮面と音楽～」（担当：大城 學）

会期：平成3年10月15日（火）～12月1日（日）

会場：1階ロビー、第1室、企画展示室、第3室、講堂

〔開催趣旨〕芸能や音楽は、古くから人間生活のなかで重要な役割を占めてきた祭りや呪術、そして娯楽といった精神文化の華麗な表現である。仮面や楽器には、自然やそれをつかさどる神を敬い祈り、活力や安寧を祝い喜ぶ、人間の共通した心とその造形美が表れている。この特別展では、本県を含めた南西諸島、本土、東アジア・東南アジア・南アジア・北アジアの祭りや芸能に登場する仮面や芸能道具、楽器等をとりあげ展覧する。展示を通じて、沖縄文化との共通点や相違点を紹介し、沖縄文化の源流やアジア文化の多様性を考察する。

〔開催形式〕当館と琉球新報社が共催し、国立民族学博物館の協力を得て実施した。なお、国立民族学博物館の藤井知昭教授（総監修）のもとで展示内容や展示会の推進について検討した。

〔展示内容〕仮面劇・宗教舞踊・影絵・人形劇などの用具、楽器をとりあげて、写真パネルといっしょにそれぞれのお国柄を生き生きと展覧した。1階ロビーにはさまざまな獅子の姿を展示し、文化の多様性を象徴させた。展示室内には各国の音楽を積極的に紹介し、また、講堂においては、各国の芸能や祭り、文化を紹介するビデオや映画を、開催期間中毎日（午前と午後2回ずつ）上映した。

#### 〔関連催し物〕

①文化講座（第206回博物館文化講座。10月15日〈火〉午後2時～4時）、於：当館講堂。特別講演「アジア音楽のコスモロジー」、講師：藤井知昭（国立民族学博物館教授）。

②仮面芸能講演（10月27日〈日〉正午～2時）、於：当館講堂。演目は「スパン」「山崎ヌアブゼーマ」（黒島民俗芸能保存会）、「スンドー」（名護市屋部公民館）、「メナックジンガ」「マニプレン」（インドネシア、ロントゥカラ・ライラ）、「テニクリン」（フィリピンフォークダンス）（フィリピン、マハルリカのグループ）。

③仮面製作実演（11月16日〈土〉・16日〈日〉午前10時～正午／午後2時～4時）、於：当館企画展示室。アンガマの面を製作した。製作者：新城弘志。などを実施した。

また、図録として、『アジアの祭りと芸能～仮面と楽器～』を刊行した（B5版、147頁）。

〔展示資料目録〕展示資料目録の詳細は、図録の巻末に掲載してある。

〔韓国〕40点……農楽用衣裳、農楽用太鼓、鳳山仮面劇仮面（獅子）、山台仮面劇仮面等

〔中国〕42点……京劇用衣裳、影絵人形、獅子、竜、楊琴、大三弦、地方仮面劇仮面等

〔ミャンマ（ビルマ）〕12点……仮面、あやつり人形、サウン等

〔ベトナム〕8点……水上芝居人形

〔マレーシア〕6点……仮面

〔タイ〕8点……半円形ドラ、太鼓、木琴、チャルメラ、シンバル等

〔インドネシア〕74点……トペン仮面、バロンケケット（仮面）、ワヤンゴレ、楽器ガムラン等

〔インド〕56点……プルリアチョウ仮面、セライケラチョウ仮面、オリッサ神格仮面、楽器サー

ランギ等

〔スリランカ〕40点……コーラム仮面、トゥビル仮面等

[ネパール] 11点……ナヴァ ドゥルガー仮面、スーリヤピヤクン仮面等  
[ブータン] 21点……チャム仮面、楽器（人骨笛、振鈴、ホラ貝など）等  
[モンゴル] 7点……チャム仮面、チャムのぼり、楽器馬頭琴等  
[日本] 14点……鹿頭、男面（御陣乗太鼓の装束）、なまはげ、神楽面等  
[鹿児島県] 12点……ボゼ面、カズラ面、メン、面踊りの面、諸鈍シバヤ面等  
[沖縄県内] 35点……獅子頭、弥勒の面、ダートゥーダー、パントトゥ、組踊写本、工工四、三  
線等

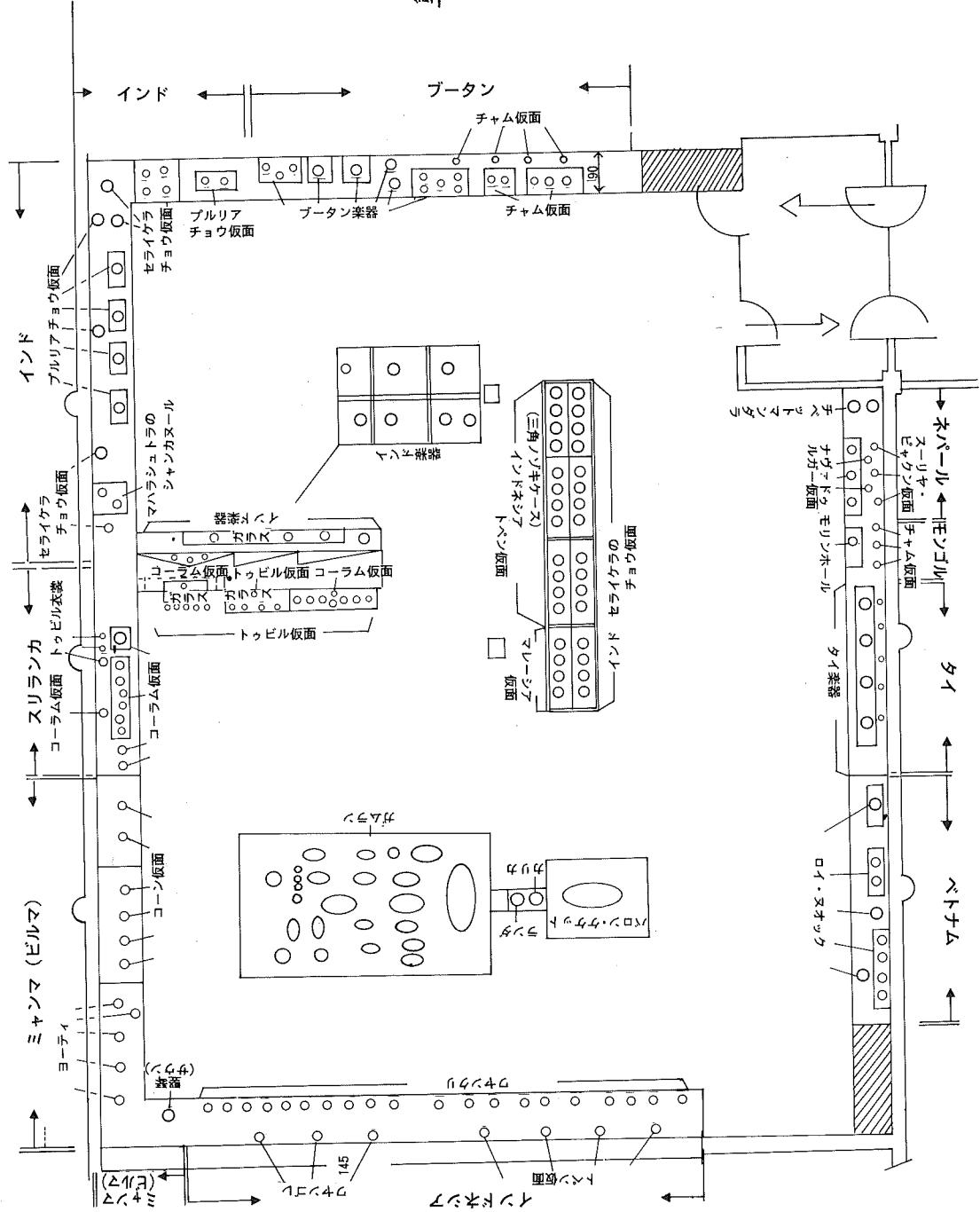


展示見学風景

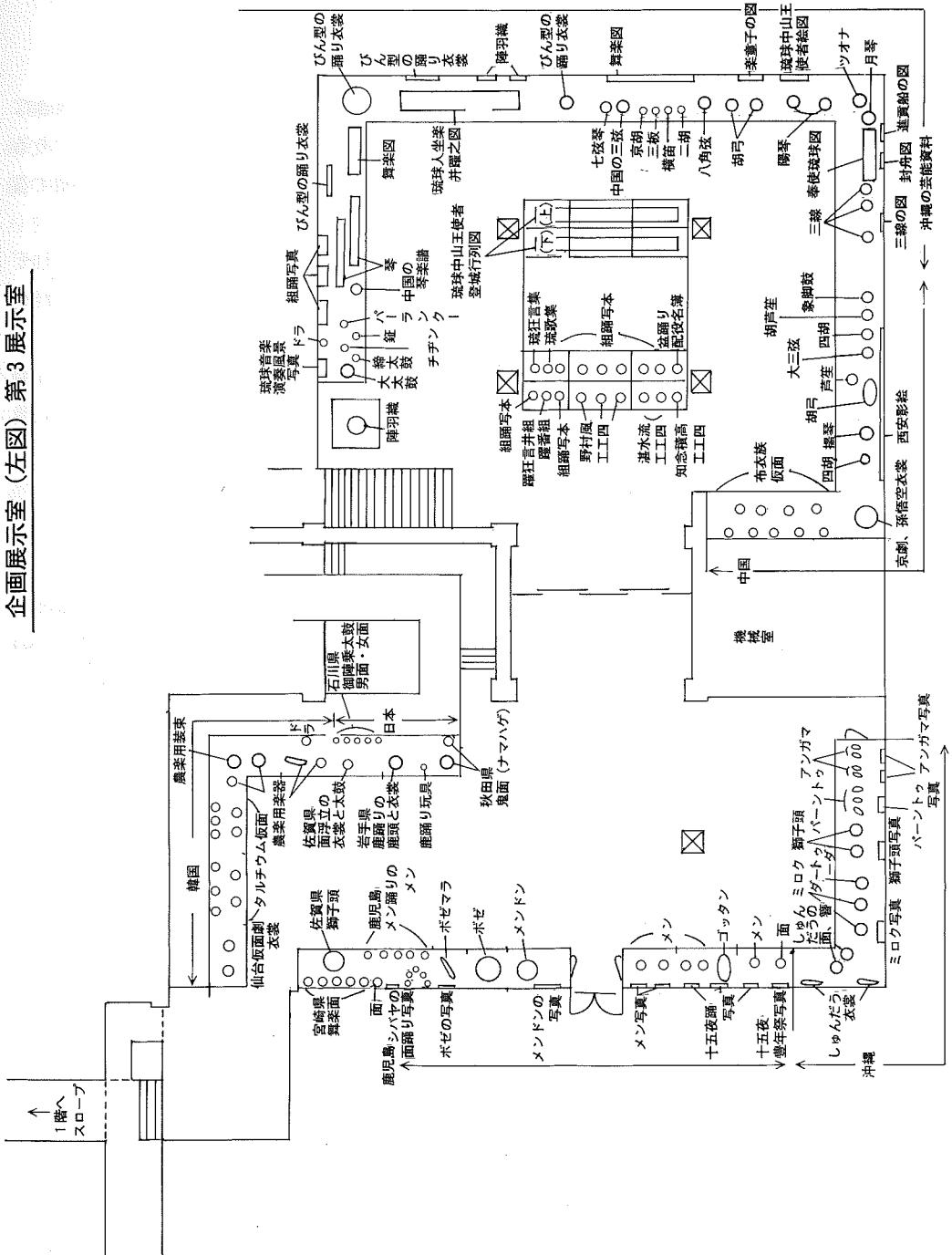


仮面製作実演（新城弘志氏）

第1展示室



企画展示室（左図）第3展示室



### 3 企画展

#### 1. 平成2年度「新収蔵品展」（担当：与那嶺一子）

会期：平成3年5月14日（火）～5月26日（日）

会場：企画展示室

〔開催趣旨〕博物館では資料を収集し、保管し、展示し、あわせて調査研究することが、大きな目的となっている。特に博物館資料の収集活動は展示部門を円滑にするうえで大切なことである。「新収蔵品展」は前年度に寄贈され、収集し、購入した資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の展示に役立てる目的として実施するものである。

〔展示内容〕展示ケースを考古・歴史・自然史・美術工芸・民俗の各分野ごとに区切り、それぞれの分野でまとめて展示したが、展示スペースに限りがあるために、収蔵されたすべての資料を展示することはできなかった。

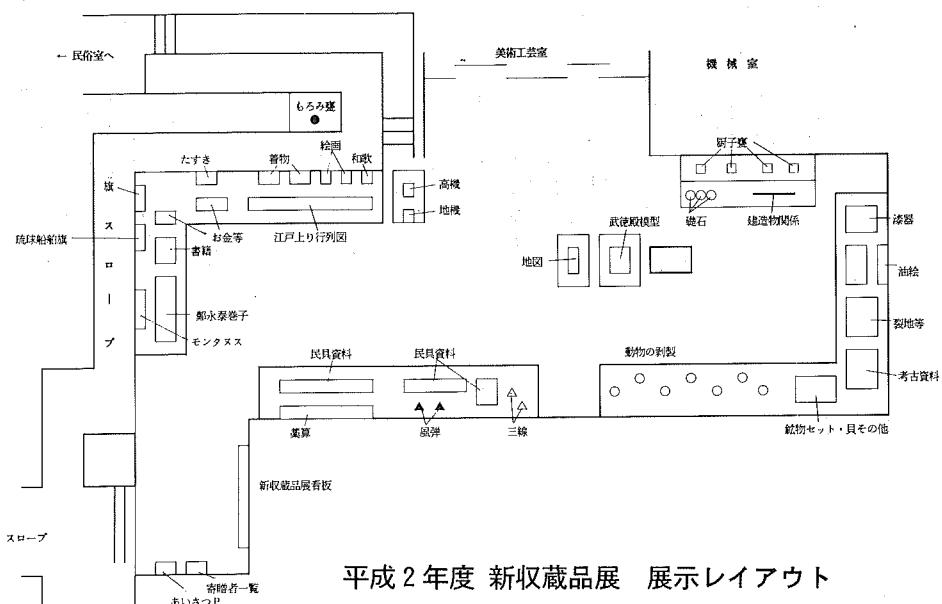
〔展示目録〕展示に際してパンフレット「平成2年度新収蔵品展」を刊行し、そのなかで主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は、『沖縄県立博物館年報』No.24にも掲載されている。

寄贈の部：タガヤサンミナシ・ヒクイナ・イソヒヨドリ・江戸上り行列図・「壺屋」・和歌・緑釉魚籃観音像・復帰時のドルと日本円引換書・戦時債券・建造物の礎石・炊飯鍋・編み袋・アラユイ・琉球船舶旗・三線他

購入の部：文人画向芝祥書・古我知焼・朱塗沈金山水人物食籠・朱漆海老文堆錦硯箱・『琉球和解宋名臣言行録』・モンタヌス日本誌挿画「鹿児島島図」・鄭永泰書巻子・アンガマの面他

移管の部：武徳殿模型

収集の部：平（女）瓦〈首里城跡〉・青磁片（瀬戸内町佐知克遺跡）他



平成2年度 新収蔵品展 展示レイアウト

## 2. 沖縄のチョウ展（担当：上門清春）

会期：平成3年8月1日（木）～8月25日（日）

会場：沖縄県立博物館企画展示室及びスロープ

協力：沖縄昆虫同好会、株式会社沖縄フジカラー

【開催主旨】夏休みになると、今も昔も変わらない子供たちの日課の一つに、昆虫採集がある。幼少の頃、捕虫網を持ちチョウを追いかけて野山をかけめぐり、いろいろなチョウを採集して綺麗な標本をつくった思い出があると思う。チョウはその美しい姿ゆえに、昔から人間と深い関わりをもつ昆虫である。沖縄の伝統的工芸品である漆器や織物の図柄にも用いられ、また古代歌謡「おもうろ」の名歌にも出てくる。またその可憐さは、コレクションの対象になったり、商品として売買されたりしていることも事実のことである。現在、子供たちの中には、悲しいことに、昆虫イコールデパートの商品との概念がある。チョウもその例外ではなく、まさに自然に対する正しい認識が失われつつあるのが現状である。誰もが幼い頃からチョウを間近に見てながら、チョウについてあまり理解されていない気がする。本展示会では、チョウの一般的なことから沖縄のチョウ相を特徴や要因をはじめ、天然記念物に指定されているチョウや沖縄の土着種56種全てについて、実物標本や写真パネルを用いて広く展示紹介する。多くの方々がチョウの変化の不思議さと可憐さを堪能していただき、本展示会が沖縄のチョウに対する関心と正しい認識を一層高揚させ、沖縄の自然保護の向上に寄与することを目的として開催した。

【開催形式】当館が主催し、沖縄昆虫同好会、株式会社沖縄フジカラーの協力で開催した。

【展示内容】① スロープ展示……………階から企画展示室に通じるスロープの壁にはチョウの生態写真パネルを展示。

② 企画展示室内展示……文字パネル、生態写真、標本などを用いて以下のテーマで紹介した。

※ チョウを理解する展示内容……沖縄のチョウ相の特徴、チョウとはなにか、チョウの系統進化（系統樹）、チョウとガの違い、チョウの体のつくり、チョウの生活史、チョウの採集道具・標本づくり、チョウの生活あれこれ（身を守る工夫——擬態・警戒色など、渡りをするチョウ・アサギマダラ、チョウはなぜ群れる——リュウキュウアサギマダラの集団越冬、アオスジアゲハの集団吸水・固体変異、南の島のチョウ・迷チョウたち）。沖縄のチョウ・迷チョウなど標本展示。

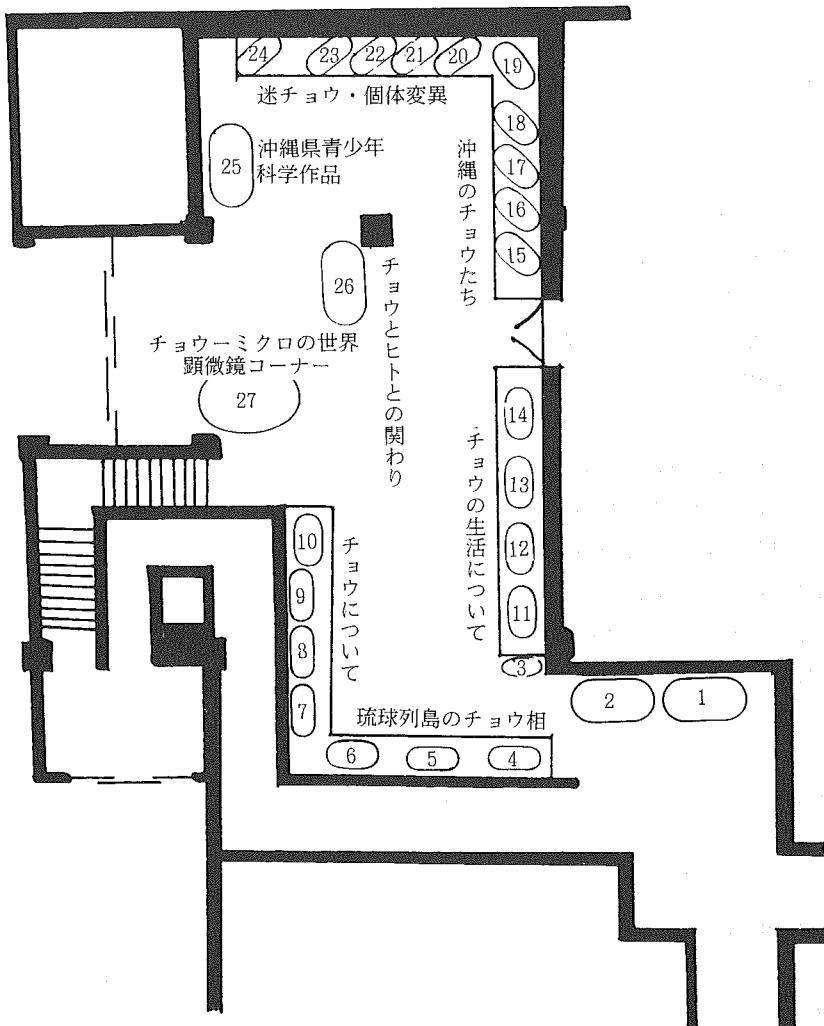
※ コラムとして・・（天然記念物のチョウ、日本一大きいチョウと小さいチョウ）

※ チョウ・ミクロの世界——顕微鏡下でのチョウ、鱗粉、複眼の観察など。

※ 人間生活との関わりに関する展示・・歌謡おもうろ、紅型、漆器、踊り衣装（宜野座の胡蝶の舞の衣装）、八重山のふうたん、チョウの小物、ネクタイなど

※ 沖縄青少年科学作品展優秀作品の展示・・北山高校生物クラブの研究、北中城中学校友寄道哉君の研究

## [展示レイアウト]



展示見学風景

## 展示レイアウトの説明

- ① 看板
- ② あいさつパネル
- ③ 書跡「飛び立つゆる蝶 まづよまでつれら 我身や花の本 知らぬあもの」
- ④ 沖縄のチョウ相（パネル説明）
- ⑤ 琉球列島のチョウ—北限種と固有種—（琉球列島の地図上に北限種と固有種を標本で展示説明）
- ⑥ 天然記念物のチョウ

※ この展示コーナーには、ジャノメチョウ4種の写真パネルとシロオビアゲハ、アサヒナキマダラセセリのパネル写真の展示もした。
- ⑦ チョウとはなにか

チョウも昆虫のなかまでのタイトルでチョウの系統的な特徴をパネルで説明した。
- ⑧ 沖縄の昆虫たち

導入として沖縄のトンボ、クワガタ類、バッタ類、セミ類などの標本も展示した。
- ⑨ チョウとガはどうちがう

触角の違いで区別する方法をパネル展示と代表的なチョウとガの標本で区別点が分かるような展示をした。

※ その他、チョウのからだのつくりと各部の名称、幼虫・蛹・卵のつくりと各部の名称、卵のかたち、蛹のかたちをパネルで展示説明。チョウの標本のつくりかたのコーナーでは、展翅に必要な道具、展翅の仕方の順序など一目で分かるような展示をした。
- ⑩ 日本一大きいチョウと小さいチョウ（オオゴマダラとハマヤマトシジミの標本）
- ⑪ 身を守る工夫（隠蔽の術・ルリタテハの翅を閉じたのと開いたのを木に展示しその様子が分かるようにした。コノハチョウの閉じたのを枯葉の中に置くとどちらか区別がつきにくいことを認識させる展示をした。その他ウスイロコノマチョウのパネル写真展示。ミミクリーの術・カバマダラ→メスアカムラサキのメスとツマグロヒョウモンのメス、ベニモンアゲハ→シロオビアゲハⅡ型メスの標本でその様子を比較展示、威嚇とそらし紋・威嚇の例はモンキアゲハの斑紋やツマベニチョウの幼虫、そらし紋の例はジャノメチョウの眼状紋とシジミチョウのなかま尾状突起で展示説明。
- ⑫ 渡りをするチョウ・アサギマダラの渡りを紹介。その記録の仕方など展示。
- ⑬ 越冬集団・リュウキュウアサギマダラの越冬集団のようすを再現展示。
- ⑭ 集団吸水・アオスジアゲハの集団吸水の場面を再現展示。
- ⑮ アゲハチョウ科（標本） ⑯ タテハチョウ科（標本） ⑰ シジミチョウ科（標本）
- ⑯ テングチョウ科（標本） ⑰ ジャノメチョウ科（標本） ⑱ マダラチョウ科（標本）
- ㉑ セセリチョウ科（標本）
- ㉒ 個体変異・リュウキュウムラサキとウスキシロチョウについて
- ㉓ 迷チョウ
- ㉔ 沖縄県青少年科学作品展優秀作品展示（北中城中学校、北山高校生物クラブ）
- ㉕ チョウと人間のかかわり（おもろ、宜野座の胡蝶の舞衣装、紅型、漆器など）
- ㉖ チョウミクロな世界——顕微鏡コーナー（鱗粉などの観察）

※ その他、関連行事や展示を通してチョウの学習ができるよう配慮した。

○ 図録：沖縄のチョウの刊行

○ 博物館文化講座：チョウと遊ぼう！

講師・長嶺 邦雄先生、後藤 光男先生、新城 安哲先生

首里末吉森公園でチョウの採集観察（午前中）と博物館講堂（午後）で標本のつくり方の実習

○ ワークシートの作成と提供

展示内容に合わせ調べ学習ができるように次のテーマでワークシート（1～10号）を作成し、来館者に提供した。

1号・なまえやとくちょうなどをしらべてみよう

2号・色ぬりをしてみよう（オオゴマダラ）

3号・色ぬりをしてみよう（ツマベニチョウ）

4号・色ぬりをしてみよう（コノハチョウ）

5号・色ぬり、紋様をかいてみよう（イシガケチョウ）

6号・沖縄県の天然記念物のチョウについてまとめてみよう

7号・生活戦略——身を守る工夫

8号・いろいろな幼虫

9号・チョウとガの比較

10号・チョウを理解するための用語解説

○ 入館者数一万人目の記念品贈呈式実施

### 3. 壺屋陶工作展（担当：津波古 聰）

会期：平成3年9月17日（火）～10月6日（日）

会場：企画展示室

〔開催趣旨〕壺屋は、約300年の歴史をもつ沖縄の代表的な窯場であり、現在でも多くの陶工が活躍している。この壺屋も明治・大正・昭和初期の時代はけっして順風満帆ではなかった。琉球王府の保護を失い、さらに本土商品の進出など幾多の困難に遭遇しながら祖先から受け継いだ伝統を失わず現在に至っている。

この展示会は、戦前・戦後の苦難の時代を生きた陶工のうち、物故者に焦点をあて、壺屋陶芸の脈絡や動向を紹介する。同時に彼らの作品をとおして壺屋陶芸のすばらしさをもう一度みなおし、今後の陶芸のありかたを考える機会にしたい。

〔開催形式〕当館・壺屋陶器事業協同組合が共催し、沖縄タイムス社の協力を得た。

〔展示内容〕プロローグに壺屋の名称の変遷を年表で表示し、戦前戦後をつうじて影響を与えた浜田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチの作品を紹介した。あわせて壁には大正時代を中心とした壺屋の民俗絵図（小橋川清福、小橋川秀義各氏作成）を掲示した。

陶工の作品は、遺族の所蔵する作品が少ない場合や代表的な作品が当館に所蔵されている場合をのぞき、できるだけ遺族が所蔵しているものであり公開されていないものを展示した。物故者・13名の紹介は、顔写真とともに陶工のプロフィールを紹介したが、新垣栄順については、つ

いに顔写真が手に入らず、表示できなかった。

陶工のプロフィールについては、陶工の人柄と作品の特徴をとおして壺屋の歩みを紹介するのがおおきな目的のひとつでもあったため、報償の事項については一切はぶいた。壁には、各遺族から提供をうけたモノクロ写真、鎌倉芳太郎撮影の写真、坂本万七撮影の写真によって構成した。

なお、展示作業中に、新垣蒲、島袋常榮両物故者の作品が新たに確認されたため特別出品として展示した。したがって、図録等には掲載されていない。

〔展示目録〕日本民芸協会の浜田庄司（刷毛目急須）、河井寛次郎（八角鉢）、バーナード・リーチ（ミルク入れ）の作品は当館の収蔵品を展示した。ただし、河井の作品は成形が河井で、絵付けは新垣栄徳の手による。物故者の作品は、18名・76件であるが、新垣栄秀、新垣栄盛、国場真一ら3名（ともに物故者）は物故者の親・兄弟であるが、伝統を受け継ぐ実例として出展した。したがって、プロフィールはない。

展示は一門別にわけ、本家を最初にし、兄弟、親戚と年代順に配置した。展示した作品は次のとおり。

新垣栄世（新垣門中の本家）〔クワーディー釉花瓶、頭獅子、クワーディー釉三耳壺、クワーディー釉長頸瓶、焼締からから・杯5点〕・6件

新垣栄秀（栄世の父）〔龍巻模様花瓶〕・1点

新垣栄盛（栄世の兄）〔印花文色差陶枕〕・1点

新垣栄順（栄徳の兄）〔緑釉流飴釉壺〕・1点

新垣栄徳（栄順の弟）〔刷毛目七合徳利、魚文角瓶、コーヒー・カップ（2点）、二彩流ティーポット、緑釉茶碗、搔落急須、搔落湯飲（2点）〕・7件

新垣栄三郎（栄徳の長男）〔赤絵キビ文壺、赤絵キビ文花瓶、赤絵キビ文水差、窯変辰砂花瓶、赤絵キビ文花瓶、クワディーサ釉壺、緑釉窯変壺、窯変草花文貼付壺〕8点

国場健吉（小橋川門中の次男）〔獅子、玉乗り獅子（2対）、獅子型灰皿、獅子型香炉、守り獅子〕6件

国場真一（健吉の父）〔獅子（2点）、守り獅子〕3件

小橋川仁王〔赤絵桜散らし茶家、貼付帆船芭蕉文壺（永昌と合作）、貼付獅子牡丹唐草文壺（永昌と合作）〕3点

小橋川永昌（仁王の三男）〔赤絵草花文茶碗、赤絵芭蕉文水指、赤絵竹文抱瓶、搔落唐草文角瓶、染付粟文花瓶、赤絵大壺〕・6点

小橋川永弘（仁王の四男）〔象嵌唐草文丁子風炉、緑釉搔落唐草文壺、透彫双龍花瓶、線彫唐草耳付花瓶、緑釉流嘉瓶、窯変嘉瓶、緑釉搔落菊花文大皿、緑釉からから、窓絵魚文土瓶〕・9点

小橋川永仁（仁王の七男）〔窯変獅子、窯変獅子（対）、二彩打獅子（対）、酒茶家に菓子鉢、陶枕、網代文三段重茶家、赤絵牡丹に魚文水指〕・7件

小橋川清秀（小橋川門中）〔盛付龍巻壺、緑釉火鉢、緑釉獅子乗香炉、鉄絵釉水盤、流釉水盤、飴釉水盤、煉込大皿、線彫大皿〕・8点

島袋常戸〔線彫瑞雲抱瓶、窯変角瓶、染付菖蒲文角瓶、象嵌印花文抱瓶、彫り絵三彩角瓶、筒描格子文角瓶〕・6点

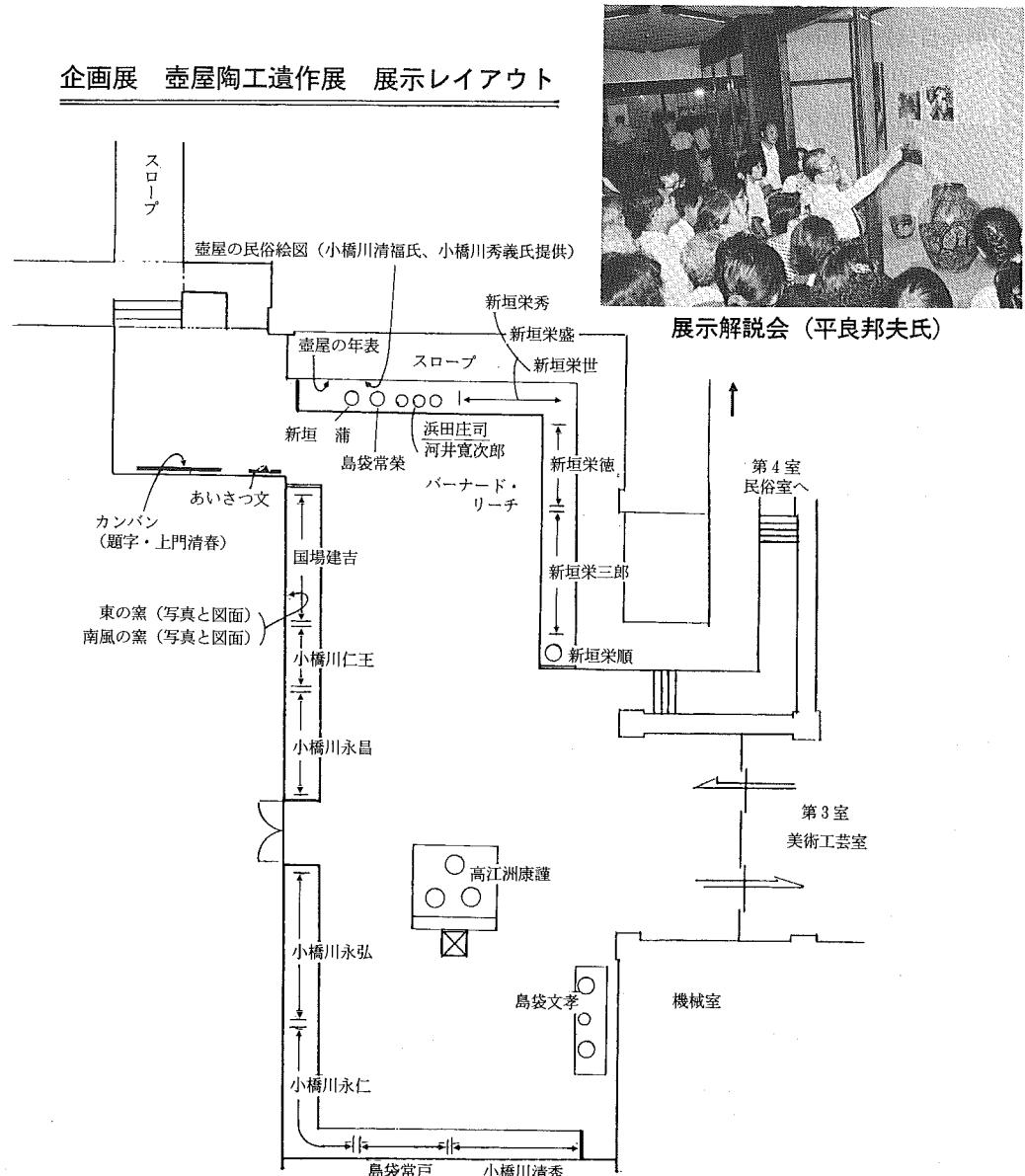
島袋文孝〔緑釉壺、搔落窓絵鳥文壺、二彩流盛鉢、〕・3点

高江洲康謹〔柿釉獅子（対）、獅子型テーブル〕2件

新垣蒲〔屋根獅子〕・1点

島袋常榮〔荒焼壺、荒焼茶壺〕2点

〔付記〕この企画展の開催中、関連事業として文化講座「壺屋の陶工」（文化講座の項参照）を開催した。あわせて展示会の内容を補う目的で図録「壺屋陶工遺作展」を刊行した。



### ○壁に展示したもの

① 作者のプロフィール

② 戦前・戦後の壺屋の風景写真（モノクロ）

※なお、写真は各遺族から提供を受け、当館に所蔵されている坂本万七撮影の戦前の写真パネルと鎌倉芳太郎撮影の戦前の写真を加えた。

#### 4. 企画展「琉球の香り・あわもりの歴史と文化」（担当：萩尾俊章）

会期；1992年2月4日（火）～2月23日（日）

場所；沖縄県立博物館2階企画展示室及びスロープ

〔開催趣旨〕沖縄特産の酒「泡盛」は、周辺諸国との長い歴史的交流や沖縄の風土にはぐくまれつつ生まれてきました。しかし、これまでこの泡盛に関する県内資料を総合的な視点から調査したことはありませんでした。

昨年度、沖縄県立博物館では、文部省の国庫補助を得て、泡盛に関する資料調査を実施しました。それにより、教育普及書『あわもりーその歴史と文化ー』を刊行しました。

本展覧会はそれらの成果をもとに、関係機関の全面的な協力を得て、企画開催するものです。展示会では名酒「泡盛」にスポットをあて、酒・酒造業にまつわる古文献及び絵図資料、伝統的な醸造器具や蒸留器の復元、祭祀や日常生活に密着した酒器、県内酒造所の銘柄や写真パネルなど総数約200点を一堂に展覧紹介し、その歴史的・文化的背景を辿ります。

この機会に、沖縄の特産物である名酒「泡盛」に対する関心を高揚し、沖縄の生活・文化史の一侧面及び地場産業である泡盛業について理解を深めることを目的としています。

〔開催形式〕沖縄県立博物館と沖縄県酒造組合連合会が主催し、沖縄国税事務所の後援、沖縄県酒造協同組合と(株)沖縄フジカラーの協力を得て開催しました。

〔展示内容・目録〕展示は内容にそって以下の11のコーナーに細分しました。展示資料の件数は117、点数は164で、これに写真パネル40点を紹介した。本展示会では従来の展示会と異なり、泡盛が食品の一つであるという性格上、資料の展示のみではなく、「触れる」「感じる」ことにも主眼をおきました。そのため、黒こうじ菌や酵母菌を顕微鏡で見るコーナー、学校の理科教育におけるアルコール発酵の実験コーナーを設けました。また、講堂では泡盛全般にわたって紹介したビデオ「泡盛」（沖縄県酒造協同組合編集）の上映、会場入り口では泡盛の試飲並びに販売コーナーを設置しました。

##### ① 酒と文化

婚礼酒宴の図、祝祭用かざりびん、バタシ、八重山風俗図など

##### ② あわもりのはじまり

酒造りの図、おもうさうし、歴代宝案、シャム南蛮、ルソン南蛮、タイ・中国の酒、首里那覇港図、中山伝信録など

##### ③ 王国時代の泡盛

江戸上り行列図、琉球人記条、酒番付表、南島志、陶器製蒸留器、モンタヌス日本誌挿画「鹿児島図」、日本遠征記、八重山諸締帳、わらざん、八重山風俗図、沖縄志、紅葉如醉など

##### ④ 泡盛産業の時代

泡盛ポスター、泡盛新聞広告、泡盛壳出広告、酒造組合連合会パンフ、沖縄物産案内、小学新撰地誌、県外出荷用泡盛壺、井伊文子氏短歌など

##### ⑤ 戦中・戦後の泡盛

密造用蒸留器、薬きょう製蒸留鍋、八重山民政府免許酒類販売所看板、ビール瓶詰泡盛、酒類酒造免許書、泡盛銘柄ラベル（戦後初期）など

- ⑥ 現代の泡盛  
古酒、尚元模対句、座間味宗徳氏泡盛コレクションなど
- ⑦ 泡盛銘柄及び銘柄地図  
泡盛酒造所主銘柄各1本、銘柄地図、写真パネルなど
- ⑧ 泡盛の製造工程と旧式酒造道具  
アライバーキ、コウジバーキ、こうじ箱、ニクブク、イージェー（櫂）、もろみくみ出し  
柄杓・桶、ムルンガーミ、計量器、酒甕、直釜式蒸留器、酒運搬容器（ウマダル）など
- ⑨ 生活の中の泡盛  
ひょうたん型徳利、掛分徳利、緑釉嘉瓶、抱瓶、すず瓶、ヤーシ徳利、ヤシ盃など
- ⑩ 理科教育におけるアルコール醸酵の実験コーナー  
イースト菌とぶどう糖を用いた実験（塩添加）
- ⑪ こうじ菌・酵母菌を見るコーナー  
立体顕微鏡3台を用いてこうじ菌・酵母菌などを実際に見る。

〔関連行事〕文化講座の一環として泡盛に関する講演会を開催した。参加者は250名で、関心の高さを示した。

★期日 2月15日（土） 2：00～5：00

★講師及び講演タイトル

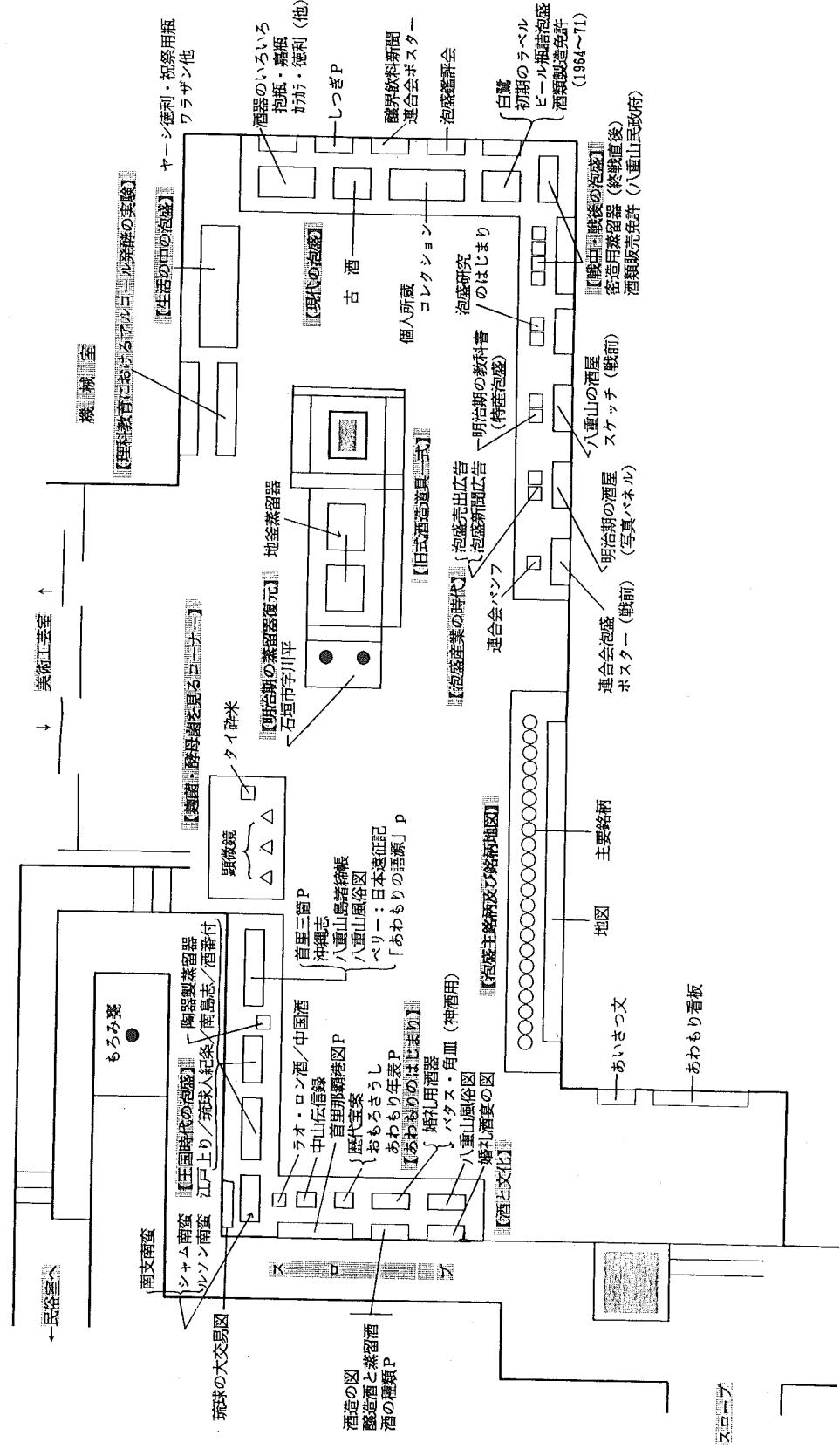
照屋比呂子氏（沖縄県工業試験場）——「泡盛の話」

玉城武氏（東京国税局鑑定官）——「古酒の研究」



あわもり展試験コーナー風景

## 企画展「琉球の香り・あわもりの歴史と文化」展示ディスプレイ（概略）



## 4 移動博物館

### 第15回移動博物館

会期：平成3年6月7日（金）・8日（土）

会場：大原離島総合センター

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・竹富町・竹富町教育委員会

【趣旨】当館の利用に不便を感じる離島や遠隔地において、博物館活動を公開し、参加することによって、文化の広域普及をはかることを目的とする。第15回は竹富町西表島において開催した。

【内容】〈展示会〉〈ビデオ〉〈文化講座〉で構成した。展示は考古・歴史・自然・美術工芸・民俗の5分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた。そして、特に今回は、西表島関係の展示コーナーを設けた（展示目録参照）。展示会場入口近くにビデオ放映会場を設けた。文化講座は、上原小学校体育館で催した。

【ビデオ放映】「琉球の風物」「琉球の工芸」「酒だ忍法コノハチョウ」「ノグチゲラは生き残れるか」他

【文化講座】日時：6月7日（金）午後7時～9時

場所：上原小学校体育館

演題：「八重山のうた」

講師：波照間永吉（沖縄県立芸術大学附属研究所助教授）

【入場者数】展示会 524人（小人） 347人（大人） 計871人

文化講座 8人（小人） 65人（大人） 計 73人 合計944人

【予算】国庫補助を得て、総額7,000,571円。内訳は、諸謝金（7,000円）、旅費（1,533,81）、消耗品費（380,132円）、印刷製本費（1,500,050円）、通信運搬費（3,579,576円）。

### 〔展示品目録〕

#### 〈古生物〉

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、恐竜の卵の化石、世界最古の化石“コレニア”

#### 〈沖縄の生物〉

##### 写真パネル〔沖縄の天然記念物（動物）〕

ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、イボイモリ、ホルストガエル、ナミエガエル、イシカワガエル、コノハズク、リュウキュウキンバト、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、他

#### 動物剥製・骨格標本

ジュゴンの骨格標本、イリオモテヤマネコ、ダイトウオオコウモリ、オリイオオコウモリ、コガモ、ヤンバルクイナ、アカショウビン、ヤマシギ、ホウロクシギ、キンクロハジロ、他

#### 〈絵画〉

江戸上り行列図（版画）、八重山風俗絵図

### 〈書 跡〉

対句（古波藏爾來方書）、紅葉如醉（宜湾朝保書）

### 〈織 物〉

芭蕉・木綿浅地格子に絣衣裳、木綿紺地花織ティサージ

### 〈紅 型〉

木綿・斜格子扇菊橋梅花文様衣裳、紅型型紙

### 〈漆 器〉

朱漆山水樓閣人物堆錦重箱、黒漆山水樓閣螺鈿六角食籠

### 〈陶 器〉

緑釉嘉瓶、アンダガーミ、赤絵鶴松竹文徳利、白釉黒流からから、赤絵撫子文碗、線彫竹梅小鳥文抱瓶、線彫海老魚文角瓶（金城次郎作）、獅子（石川喜進作）

### 〈彫 刻〉

玉陵石彫獅子（レプリカ）

### 〈歴 史〉

#### 拓 本

万国津梁之鐘銘、円覺禪寺記、國王頌德碑（嘉靖元年・1522年）、官松嶺記、琉球新建國學碑文（表・裏）、比謝橋碑文、新修美栄橋碑文（表・裏）、山北今帰仁監守來歴碑文（表・裏）、ようとれのひのもん（表・裏）、他

西表島関係古文書、西表炭坑関係資料、明孝宗より琉球國中山王尚への勅書（複写）、古錢類（琉球通宝、金円世宝、鳩目錢など）、曲玉類

### 〈考 古〉

港川人頭骨（レプリカ）、沖縄本島出土の考古遺物、西表島出土の考古遺物

### 〈民 俗〉

西表島の節祭関係資料

### 玩具（張り子）

獅子メーサー、ホートウグワー、ジュリグワーブトウキ、鯉乗り童子、按司、チンチンウマグワー  
竹製品（勢理客幸英作）

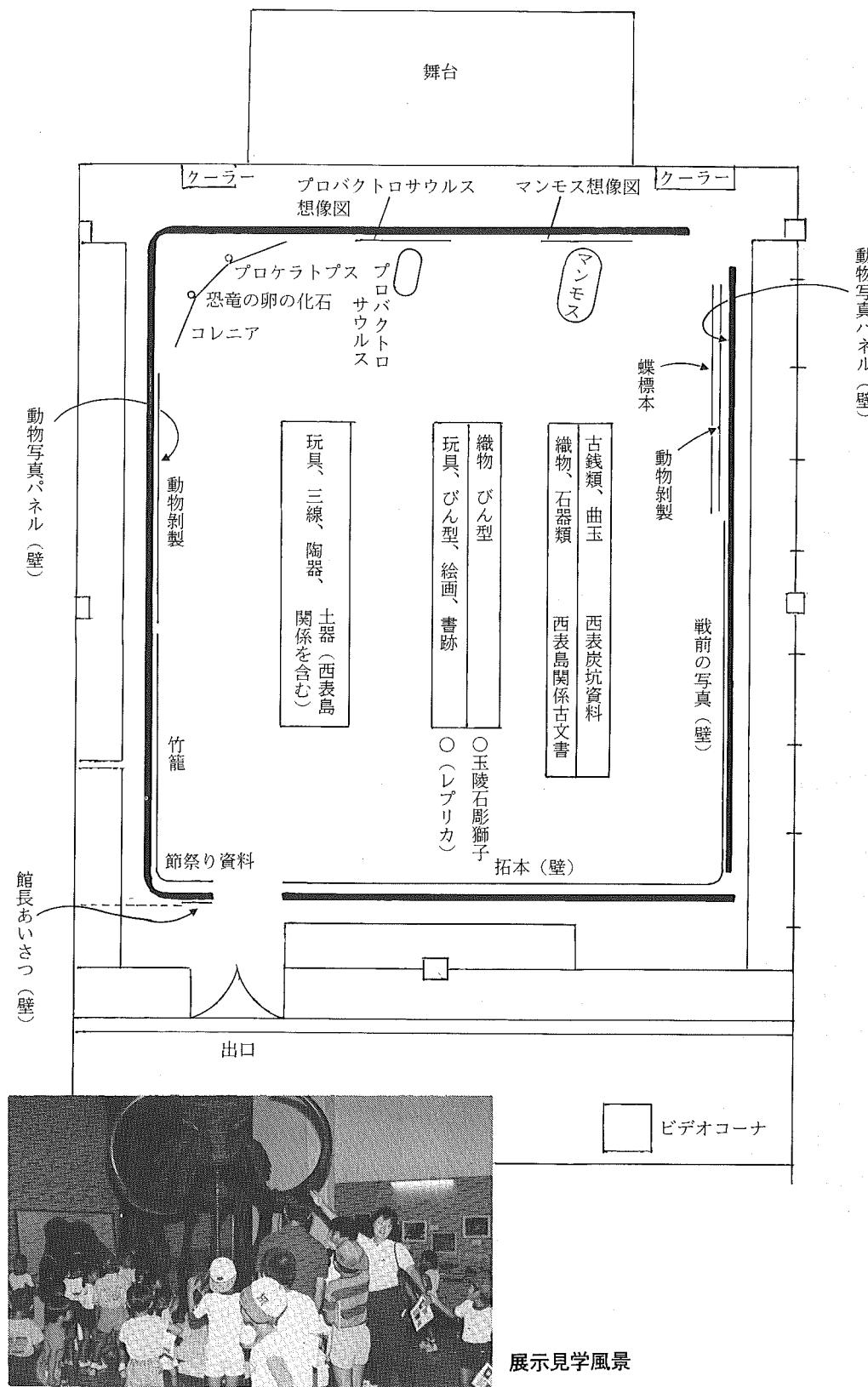
甕型花籠、縄耳付花籠、山形立差花籠、窓の月花籠、ナス型花籠、盛籠、ウーバーラー、水切籠、  
四つ目平笊、御盆、他

### 三線

真壁型、久場春殿型

### 〈戦前の沖縄（写真パネル）〉

首里城正殿、首里城守礼門、首里城歡会門、園比屋武御嶽石門、円覺寺山門、首里那覇全図、玉  
陵、競馬、闘牛、市場、辻原の亀甲墓、機織り、魚売り、壺屋の陶工、臼作り、他



## IV 教育普及活動

### 1 活動の概要

近年、社会の各分野において生涯学習への関心が高まってきている。このような状況にかんがみ当博物館では、地域における人々の学習需要に応じて多様な学習の機会が提出できるよう教育普及活動の充実を目指し努力しているところである。

平成三年度に実施してきた教育普及活動は以下のとおりであったが、なかでも昭和49年（1974）の5月に始まった博物館文化講座については、今年4月で200回目を迎えることになった。そこで、文化講座200回目を記念して、国立民族学博物館教授の佐々木高明先生をお迎えして「稻作の起源と伝来」というテーマで記念講演をおこなってもらった。

目新しい事業としては、夏休み「歩く・見る・作る」教室を開設したことである。この教室は、子供たちに長い夏休みを有意義に過ごしてもらうため企画されたもので、親子文化財めぐり（7月27日）、映画を見よう（8月11日）、親子土器づくり（8月25日）等である。親子文化財めぐりが台風の接近で中止になった以外は二つの教室とも大好評のうちに終わった。

- 1、博物館文化講座（毎月1回で200回～211回までの12回実施した）
- 2、移動博物館（竹富町大原）
- 3、ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
- 4、観覧者への展示室解説
- 5、児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
- 6、団体へのビデオの放映
- 7、博物館事業のマスコミなどへの広報
- 8、友の会事業への指導や援助

### 2 教育普及の取り組み

#### 【事前打ち合わせとワークシートのとりくみ】

当館は総合博物館で、郷土の自然、歴史・考古、美術工芸、民俗の実物資料が豊富に展示されていて、その資料を見ながら郷土についての学習ができるように教育的配慮のもとで展示工夫さをしてあります。当館では、郷土の学習を博物館で行なう学校に対してその目的を十分達成できるように、事前の打ち合せ、ワークシートの取り組み、学習プログラムの作成などの教育普及活動に取り組んでおります。

学校などから博物館見学などの申し込みが電話などであるとき、いつ・どこの・どの学年の・どのようなめあてで・何名ぐらいなどの情報を得て予定表に記録します。この場合、担当者が事前の打ち合せに博物館にこれるかどうかを確認します。これない学校に対しては電話で、これらの学校に対しては博物館に来て戴き、当館の教育普及係と一緒にになって学習プログラムを作成します。学習プログラムの内容は、オリエンティーション、昔の沖縄を見よう；（琉球の風物・琉球の民芸；およそ23分）、映画を見ての感想、展示室学習、疑問に思ったことを学芸員に質問しようなどで構成されます。その時間配分などについては学校の実状に応じて決めていきますが、おおむね学習プログラムの一例は下図のとおりです。とくに、展示室学習には、事前に打ち合わされた内容に基づいて作成される当館発行のワークシートが児童生徒一人一人に配布されます（例参

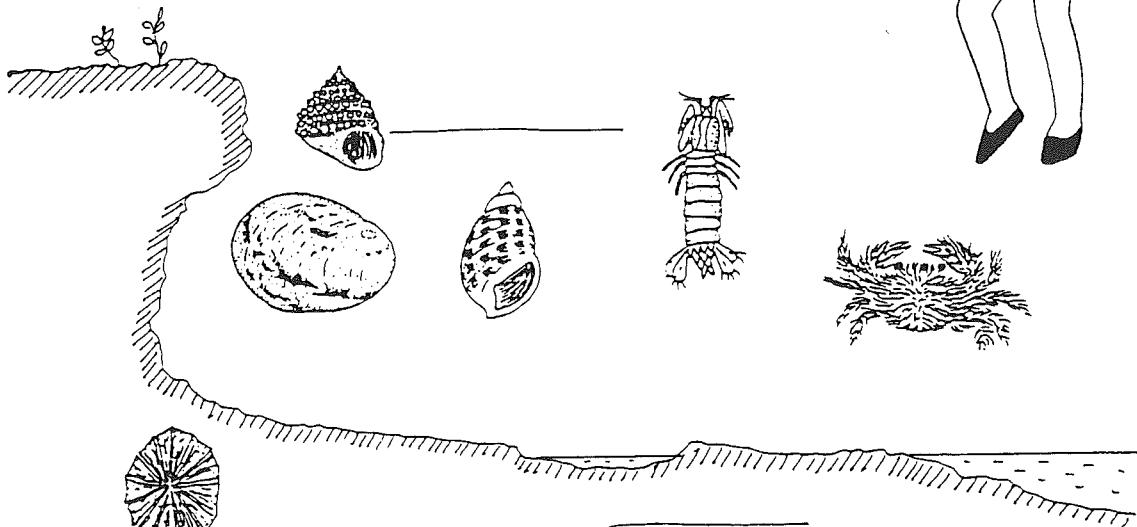
# かみはつちやう

やー よりてを博物  
館へわがこうはいの跡15.6年  
みなさん！



## 宮城島

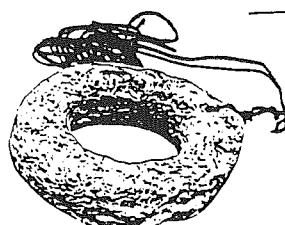
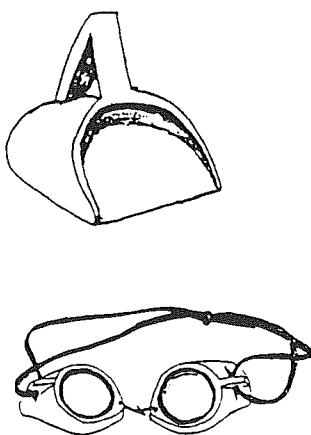
は、周囲海に囲まれ  
みなさんも幼少の頃から海とかかわりをもちながら  
成長してきたでしょう。宮城島の海のいきものたち  
の名前などをしらべてみよう。



## 海のどうぐじらべ

なまえやつかひ方などをしらべてみよう。

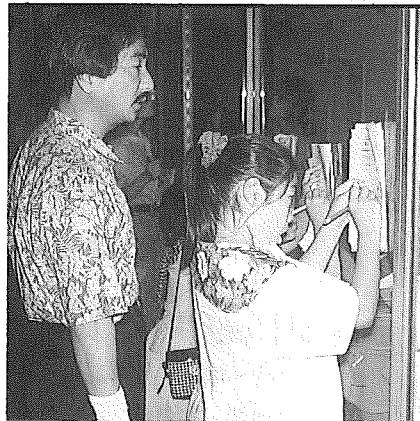
むかしの人々はいろいろ  
工夫して道具をつくりました。下の絵は  
漁でつかう道具です。宮城島で現在  
つかっているもの、つかわれていないものの、



照）。学習教材としてのワークシートは、学習のめあてに従って展示物を一つか2つ位選んで、それについて質問形式で、記録ができるように構成されています。児童生徒がそれをもとに探し学習・発見学習・体験学習などができるように工夫をしてあります。

このように、観覧に比重をおく博物館見学でなく、学習する場合としての博物館をめざして次年度もがんばりたいものです。

- 9:00 開館
- 9:30 入館
  - オリエンティション
  - 昔の沖縄を映画で見よう、感想は……？
- 10:00 展示室学習
  - 課題学習やワークシートをもとに調べ学習をする
  - 
  - 
  - 疑問に思ったことを学芸員に質問しよう
- 11:00 どうもありがとう、また来ます、さようなら



〔ワークシートで郷土の学習をする  
児童生徒たち〕

### 3 博物館文化講座

#### 第200回 記念文化講座 「稲作の起源と伝来」

日時・場所：4月20日（土） 場所・首里公民館

参加者：220名

講 師：佐々木高明（国立民族学博物館教授）

内 容：今回で、文化講座も200回目を迎えたが、これを記念した文化講座である。

日本文化を支えた稲作の起源・伝来と沖縄の関係をアジア全体から見る。

#### 第201回 「海の中のあぶない奴ら」

日時・場所：5月18日（土） 当館講堂

参加者：59名

講 師：新城安哲（沖縄県公害衛生研究所ハブ研究部研究員）

内 容：沖縄の近海に住む有毒・有害な動物たちの生態や安全対策をスライドをつかって紹介した。

#### 第202回 「八重山の神歌」

日時・場所：6月15日（土） 当館会議室

参加者：50名

講 師：波照間永吉（沖縄県立芸術大学助教授）

内 容：フチィ、フミシャギ、ユンタなど、八重山の神歌を祭祀との関わりで解説し

- た。（講堂の空調機が故障のため、急きょ会議室にて開催）
- 第203回 「仲原遺跡と貝塚の住居」  
日時・場所：7月20日（土） 当館講堂  
参加者：77名  
講 師：上原 静（沖縄県教育委員会文化課専門員）  
内 容：発掘された仲原遺跡をとおして沖縄の貝塚時代の集落と住居について解説した。
- 第204回 野外観察会「チョウチョと遊ぼう」  
日時・場所：8月4日（日） 末吉の森公園（午前）／当館講堂（午後）  
参加者：58名（小5・6年生及び中1年生対象）  
講 師：長嶺邦夫（佐手中学校教諭）  
比嘉正一（東南植物楽園学芸員）  
新城安哲（県公害衛生研究所研究員）  
内 容：企画展「沖縄のちょう」に関連した講座で首里末吉の森で色々なチョウチョを観察し、あわせて標本づくりを体験した。
- 第205回 展示解説会「壺屋の陶工」  
日時・場所：9月21日（土） 当館講堂  
参加者：75名  
講 師：平良邦夫（沖縄県工芸産業振興審議委員会副会長）  
内 容：企画展「壺屋陶工遺作展」に関連したもので壺屋陶工のながら物故者に焦点をあて、スライドを使用しながら人と作品について解説した。
- 第206回 特別講演「アジアの音楽とコスモロジー」  
日時・場所：10月15日（火） 当館講堂  
参加者：78名  
講 師：藤井知昭（国立民族学博物館教授）  
内 容：特別展「アジアの仮面と音楽」の関連事業のひとつで、アジア諸地域の音楽の宇宙観や多様性を人間とその生活環境の関わりをとおして解説した。
- 第207回 「首里城物語」  
日時・場所：11月16日（土） 当館講堂  
参加者：84名  
講 師：真栄平房敬（那覇市文化財調査審議会委員）  
内 容：ありし日の首里城の歴史的景観や城内の状況についてOHPを用いて講演した。
- 第208回 収蔵品解説会「沖縄の文様」  
日時・場所：12月21日（土） 当館講堂  
参加者：55名  
講 師：翁長自修（琉球大学教育学部教授）  
内 容：当館収蔵の紅型を中心に沖縄工芸の色と形についてスライドを使用して解説した。

- 第209回 「中国の古窯を訪ねて」  
日時・場所：平成4年1月18日（土） 当館講堂  
参加者：87名  
講 師：知念 勇（沖縄県教育委員会文化課課長補佐）  
内 容：中国の代表的な窯場・景德鎮、建窯、徳化窯などと沖縄の焼物をスライドによって紹介しながらその結びつきを解説した。
- 第210回 「泡盛の話」  
日時・場所：2月15日（土） 当館講堂  
参加者：250名  
講 師：玉城 武（東京国税局鑑定官）  
照屋比呂子（沖縄県工業試験場食品室室長）  
内 容：企画展「あわもり・その歴史と文化」に関連した講座で、泡盛の製造技術や黒麹菌などについて、スライドを使いながらわかりやすく解説した。
- 第211回 「歴史の道を歩く」  
日時・場所：2月16日（土） 首里金城町一帯  
参加者：161名  
講 師：当真嗣一（当館教育普及課長）、萩尾俊章（当館学芸員）  
友の会会員（ボランティア）  
内 容：ヒジガービラや真珠道など歴史の道というべき古い道を歩きながら歴史の追体験をおこなった。

### 夏休み「歩く・見る・作る」教室

平成3年度よりはじめた親子で参加できる講座。今年度は下記のとおり3講座を開催したが、「文化財めぐり」は台風のため中止になった。

- ① 歩く・「文化財めぐり」 日時・場所：7月27日（土）（中止）
- ② 見る・「映画を見よう」 日時・場所：8月11日（日） 当館講堂
  - 午前の部1回（AM10:00～）、午後の部1回（PM2:00～）に分けて上映した。  
番組は、「首里城正殿跡発掘調査記録」、「風物と民芸」、「紅型」、「首里織り」、「昆布海道500キロ」等を上映し、約120名が鑑賞した。
- ③ 作る・「親子土器作り」 日時・場所：8月25日（日） 当館講堂
  - 大昔の人々の生活を土器作りをとおして体験することを目的とした。親子15組（31名）が参加した。成形から焼成まで当時の制作工程予想にしたがって制作した。



第200回記念文化講座：佐々木高明氏

## V 調査研究活動

### 1 調査研究活動

大城 将保（学芸課長）

○県内所在琉球三味線調査

期 間：1991年6月～1992年3月

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

○旧中城御殿関係資料収集調査

期 間：1992年1月～3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：『旧中城御殿関係資料集』として収録刊行

當眞 嗣一（主幹兼教育普及課長）

○沖縄本島北部のグスク調査

期間：1991年9月22日～24日

○与那国島のグスク調査

期間：1991年11月4日～11月7日

○宮古島のグスク調査

期間：1992年1月8日～1月10日

千木良芳範（充指導主事）

○ダイトウオオコウモリ保護対策緊急調査

期 間：1991年6月～1992年3月

目 的：国指定天然記念物であるダイトウオオコウモリの保護のための基礎資料を収集する

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

成 果：4年間の調査についてまとめた報告書を作製する

○キクザトサワヘビ生息実態調査

期 間：1991年6月～1992年3月

目 的：県指定天然記念物であるキクザトサワヘビの保護のための基礎資料を収集する

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

成 果：調査の最終年度（1992年度）に報告書を作製する

○名護市動植物総合調査

期 間：1991年8月～1992年3月

目 的：名護市の動物相について基礎的な資料を収集する

依頼機関：名護市教育委員会

成 果：1993年度にその成果を名護市天然記念物調査報告としてまとめる

○本部町動物相総合調査

期 間：1991年6月～1992年3月

目 的：本部町の動物相について基礎的な資料を収集する

依頼機関：本部町教育委員会

成 果：1992年度にその成果を本部町動物調査報告としてまとめる

○大宜味村動物相総合調査

期 間：1991年9月～1992年3月

目 的：大宜味村の動物相について基礎的な資料を収集する

依頼機関：大宜味村教育委員会

成 果：1993年度にその成果を大宜味村動物調査報告としてまとめる

○国頭村大保謝原指定に伴う動植物調査

期 間：1991年12月

目 的：国頭村大保謝原の森林買い上げにともなう動物相の実態調査

依頼機関：国頭村教育委員会

成 果：調査後その成果を調査報告としてまとめる

○トカラ列島学術調査

期 間：1991年6月～1992年3月

目 的：南西諸島保護プロジェクトの一環として、トカラ列島の動植物について基礎的な資料を得る

依頼機関：世界野生生物基金日本委員会

成 果：調査の最終年度にその成果を調査報告としてまとめる

萩尾 俊章（学芸員）

○旧中城御殿関係資料収集調査

期 間：1992年1月～3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：『旧中城御殿関係資料集』として収録刊行

○鉄媒染による麻の劣化に関する調査

期 日：1992年3月29日～31日

依頼機関：東京国立文化財研究所

成 果：鉄媒染による繊維劣化に対する調査を行い、その対応策の基本的資料とする

津波古 聰（充指導主事）

○首里城公園の展示資料調査

期 間：1991年11月16日～18日

依頼機関：(財)海洋博記念公園管理財団

成 果：首里城御庭ゾーンにおける展示に利用される

○鉄媒染による麻の劣化に関する調査

期 日：1992年3月16日～18日

依頼機関：東京国立文化財研究所

成 果：鉄媒染による繊維劣化に対する調査を行い、その対応策の基本的資料とする

大城 學（学芸員）

○沖縄の神歌伝承活動調査

期 間：1991年6月～1992年3月

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

○県内所在琉球三昧線調査

期 間：1991年6月～1992年3月

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

○沖縄の伝統芸能に関する調査

期 間：1992年2月～1992年3月

依頼機関：文化庁文化財保護部伝統文化課

## 2 著作論文

大城 将保

- 『琉球政府』おきなわ文庫、1992年5月、ひるぎ社
- 「なぜ、住民集団自決は起きたのか」『別冊 歴史読本』、1992年5月、人物往来社
- 「ガマは地下に残された戦跡博物館」『郷土の研究』1992年3月、福武書店

當眞 嗣一

- 「グスクとその構造」『中世の城と考古学』 新人物往来社 1991年4月。
- 「沖縄の城跡（国指定史跡）」『図説 日本の史跡 6 中世』 同朋社 1991年5月。
- 「琉球の『大交易時代』とグスク」『第三回中琉歴史関係国際学術会議論文集』中琉文化経済協会 1991年6月。
- 「最近のグスク研究の動向—首里城跡の発掘を通して—」『沖高社研紀要』第14号 1992年3月31日

千木良芳範

- 「北大東島の真正クモ類について」『沖縄生物教育研究会誌』第24号、1992年3月。
- 「伊良部島のクモ類について」『沖縄県立博物館紀要』第18号、1992年3月。
- 「大東諸島におけるダイトウオオコウモリの生息個体数について」『ダイトウオオコウモリ—保護対策緊急調査報告書』 1992年3月。
- 「国頭村大保謝原における両生爬虫類について」『大保謝原指定に伴う動植物調査』国頭村、1992年3月。
- 「久米島から発見されたワクドツキジグモについて」『沖縄生物学会誌』 1992年3月。

萩尾 俊章

- 「沖縄における泡盛の民俗史概観」『小川徹先生記念論文集』1991年11月発行予定
- 「沖縄における神酒と泡盛の諸相」『沖縄県立博物館紀要』第18号 沖縄県立博物館 1992年3月

与那嶺 一子（学芸員）

- 「沖縄県立博物館所蔵紅型型紙紙の分類とその考察（一）」『MUSEUM』No.489 東京国立博物館 1991年12月
- 「沖縄県立博物館所蔵紅型型紙紙の分類とその考察（二）」『沖縄県立博物館紀要』 No.18 沖縄県立博物館 1992年3月

津波古 聰

- 「琉球の絵師たち」『MUSEUM』No. 490 東京国立博物館 1992年1月
- 「資料紹介—壺屋と古典焼き」『沖縄県立博物館紀要』第18号、1992年3月

大城 學

- 「沖縄の草装神と仮面神」『沖縄県立博物館紀要』第18号 1992年3月
- 「渡名喜島のシマノーシの神歌」『沖縄の神歌（V）』—沖縄本島(2)— 1992年3月 沖縄

## 県教育委員会

- 「沖縄の祭り」『【体系】日本の歴史と芸能』第14巻【列島の神々】所収 1992年2月 平凡社
- 「沖縄本島北部の地方伝播芸能事例調査報告」『平成三年度 沖縄の伝統芸能に関する調査報告書』所収 1992年3月 文化庁文化財保護部伝統文化課

## 3 講演等

### 当真 翠一

- 「最近のグスク研究の動向」 1991年5月13日  
依頼機関：沖社研
- 「博物館展示のし方」 1991年7月5日  
依頼機関：宜野座村教育委員会
- 「具志川市グスク巡り」 1991年8月4日  
依頼機関：具志川市教育委員会
- 「西原町の文化財」 1991年9月7日  
依頼機関：西原町立東中学校P.T.A
- 「伊江村の歴史と文化」 1991年10月15日  
依頼機関：伊江村教育委員会
- 「グスク巡検」 1991年12月8日  
依頼機関：沖社研
- 「沖縄のグスク」 1992年2月15日  
依頼機関：奈良国立文化財研究所埋文センター
- 「グスクの縄張りと史跡整備」 1992年2月25日  
依頼機関：沖縄県史跡整備市町村協議会
- 「歴史の道を歩く」
  - 期 日：1992年3月14日
  - 依頼機関：沖縄県立博物館
  - 備 考：博物館文化講座

### 千木良 芳範

- 「国頭村成人学級一文化財巡り一」
  - 期 日：1991年6月20日
  - 依頼機関：国頭村教育委員会
  - 備 考：首里金城町一帯
- 「山原の自然と動物たち」（講演）
  - 期 日：1991年9月17日
  - 依頼機関：沖縄市美容師の会
- 「楽しい自然観察」（自然観察会）
  - 期 日：1991年10月13日
  - 依頼機関：沖縄県民生協上平良川支部
  - 備 考：名護市明治山

○「1991年度自然とグスクの旅」（自然観察会）

期　　日：1991年10月26日～27日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

備　　考：国頭村

○「久米島の自然」（講演）

期　　日：1991年11月14日

依頼機関：沖縄県自然保護課

備　　考：久米島高等学校対象

○「おきなわの生きものたち」（講演）

期　　日：1991年12月19日

依頼機関：園田公民館

備　　考：園田子ども会対象

○「第3回自然に親しむ少年のつどい」（講演・自然観察会）

期　　日：1992年3月1日

依頼機関：玉城少年自然の家

備　　考：玉城少年自然の家一帯

**萩尾　俊章**

○「首里城と大交易の時代」

期　　日：1991年8月15日

依頼機関：沖縄県商工労働部

備　　考：中小企業指導員研修会

○「沖縄の歴史と文化—琉球王国の成立から崩壊まで—」

期　　日：1991年9月4日

依頼機関：西原町商工会

備　　考：西原町商工会文化講演会

○「歴史の道を歩く」

期　　日：1992年3月14日

依頼機関：沖縄県立博物館

備　　考：博物館文化講座

**大城　　學**

○「中国雲南省彝族の民俗と歌謡」

期　　日：1991年5月16日

依頼機関：沖縄県立芸術大学附属研究所

備　　考：東南アジア民族文化研究会

○「沖縄芸能コンクールについて」

期　　日：1991年7月30日

依頼機関：琉球新報文化事業局

備　　考：琉球古典芸能コンクール審査員対象

○「沖縄の芸能」

期　　日：1991年8月8日

依頼機関：沖縄県教育庁総務課

備 考：平成3年度初任者研修・洋上研修団対象

○「アジア民族芸能祭」

期 日：1991年10月19日～21日

依頼機関：石垣市

備 考：企画専門委員会

○「沖縄の歴史と文化」

期 日：1991年11月6日

依頼機関：沖縄県教育庁施設課

備 考：平成3年度公立学校施設整備事務担当者研修会対象

○「民俗芸能シンポジウム～ムラ踊り、その継承の形～」

期 日：1991年11月23日

依頼機関：南風原文化センター

備 考：司会を担当する。

○「アジアの仮面」

期 日：1991年12月14日

依頼機関：石垣市立八重山博物館

備 考：第11回子ども博物館

○「地域と祭り」

期 日：1991年12月27日

依頼機関：那覇市識名自治会

備 考：講演と映画鑑賞会

○「沖縄の仮面」

期 日：1992年1月11日

依頼機関：石垣市立八重山博物館

備 考：特別展「アジアの仮面」関連催し物、講演と映画鑑賞会

○博物館協議会

期 日：1992年3月5日

依頼機関：沖縄市郷土博物館

備 考：「市民に親しまれる博物館」について情報交換会

上門 清春（充指導主事）

○第1回沖縄県学習交流実践研究集会フォーラム登壇者

「博物館と学校教育について」

期 日：1991年4月13日～14日

依頼機関：沖縄県学習交流実践交流研究会・社会教育課

備 考：社会教育主事対象

○平成3年度第2回県立高等学校初任者研修会

「ホームルーム経営と学級通信」

期 日：1991年7月24日

依頼機関：沖縄県教育庁高校教育課

備 考：平成3年度新規採用者対象

○文化講演会「沖縄の水と川と暮らし」

「生きものたちは水がないと生きられない」

期 日：1991年8月29日

依頼機関：沖縄県治水協会

備 考：小学校6年生以上対象

○沖縄生物教育研究会第19回宿泊研修会

「博物館の自然史展示室での郷土の自然学習について」

期 日：1991年11月29日

依頼機関：沖縄県生物教育研究会

備 考：生物教諭対象

○平成3年度第2回県立高等学校教職経験者（教職経験5年）研修会

「博物館学習」「ホームルーム通信と学級経営」

期 日：1991年12月5日

依頼機関：沖縄県教育庁高等学校教育課

備 考：教職5年経験者対象

○第14回沖縄県青少年科学作品展審査委員

期 日：1992年1月28日

依頼機関：沖縄県教育庁・沖縄電力

備 考：小中高生対象

○平成3年度社会教育指導員研修会

「生涯教育と博物館—野外観察の指導の実際・自然観察の指導—」

期 日：1992年2月25日

依頼機関：沖縄県教育庁社会教育課

備 考：市町村社会教育指導員対象

## VI 収藏資料

### 1 収藏資料現在高

平成4年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	600	425	6	2	1,033
	動物	929	18,115	468	13	19,525
	植物	15	850	0	0	865
美術	絵画	69	516	1	0	586
	書跡	504	855	41	3	1,403
	彫刻	5	112	132	0	249
工芸	陶磁器	427	3,132	249	492	4,300
	漆器	229	195	162	0	586
	染織	1,069	1,431	10	0	2,510
歴史資料	443	3,471	334	74	4,322	4,322
考古資料	8	1,560	975	15	2,558	2,558
民俗資料	2,370	731	578	77	3,756	3,756
総計	6,668	31,393	2,956	676	41,693	41,693

### 2 平成3年度(1991) 収藏資料

平成3年4月1日～平成4年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質				0	
	動物		11,315		1	11,316
	植物				0	
美術	絵画				0	
	書跡	347	480		827	
	彫刻				0	
工芸	陶磁器		2		2	
	漆器	2			2	
	染織	1			1	
歴史資料	18	43	1		62	62
考古資料					0	0
民俗資料	2	88			90	90
総計	370	11,928	1	1	12,300	12,300

### 3 平成3年度(1991) 収蔵資料目録

寄贈の部

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

分類		品名	数量	寄贈者名	住所
自然史	動物	ジャコウネズミ他	33		
	"	仲嶺俊子貝類コレクション	11,282	仲嶺 俊子	名護市
美術工芸	書跡	「対句」(謝花雲石書)他	479	浜元 寛得	神奈川県
	"	三極紙風炉先屏風(安陪榮四郎作)	1	松村志奈英	那覇市
	陶磁器	灰被大獅子(高江洲盛良作)	2	高江洲盛良	那覇市
歴史資料	たばこ(昭和45年頃)		16	大田 繁	北中城村
	沖縄群島図(1980)他		2	第11管区海上保安部	那覇市
	改進新聞(明治21年版)他		10	伊藤 勝一	浦添市
	ジーファ(簪)		1	神村真喜子	浦添市
	四等三角点、標石		1	国土地理院	那覇市
	普通免許状(小学校教諭一級)他		11	神田 祐昇	沖縄市
	礎石他		2	中松 竹一	那覇市
	枡		3	新井 良康	千葉県
民俗資料	ヘーグェー他		28	上江洲 均	那覇市
	瓢箪笛他		5	大城 學	那覇市
	歌詞付 野村流三味線工工四 上巻他		20	諸見里榮眞	那覇市
	石臼		6	金城 龜政	那覇市
	壺型厨子甕他		4	謝花 慶一	浦添市
	木臼他		2	内嶺 武司	那覇市
	石厨子他		13	安里 清	中城村
	脱穀機他		6	幸地 順盛	那覇市
	タイの仮面		1	金城 光子	那覇市

移管の部

分類		品名	数量	移管元	住所
自然史	動物	象牙	1	那覇地方検察庁	那覇市

収集の部

分類	品名	数量
歴史資料	龍潭浚渫碑	1

購入の部

分類		品名	数量
美術工芸	書跡	書法真訣他（謝花雲石書）	345
	"	陳元輔書屏風	2
	漆器	黒漆芭蕉蘭堆錦大硯屏	1
	"	朱漆双龍螺鈿軸盆	1
	染織	絹紺地読谷山花織着物	1
歴史資料		安政豆板銀	1
		天保豆板銀	1
		『琉球国事略』	1
		『写本・琉球人入来御仕組帳』	1
		『稿本・改租法案』	1
			1

分類	品名	数量
歴史資料	『写本・天保琉球奏樂之記』	1
	『琉球人行列記』	1
	『写本・南東志』	1
	大明九辺萬国人跡路程全図	1
	外蕃容貌図画	1
	海東諸国紀	1
	OKINAWA or RYUKYU	1
	『定西法師伝・琉客談記・唐律御調』	1
	『照国公文書』	2
	『写本・六諭衍義大意』	1
	『沖縄県土地整理紀要』	1
	『南島偉功伝』	1
	『旧琉球藩租税法』	1
民俗資料	獅子頭	2

## 4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財重要文化財

平成3年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍 〃	お も ろ さ う し 混 効 驗 集	22冊 2冊	昭48. 6. 6 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工 芸 〃	銅 鐘 (旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
〃	梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)	3口	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)				
〃	梵 鐘 (旧円覚寺樓鐘)				

県指定文化財有形文化財

平成元年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻 〃	木彫円覚寺白象並びに趣意書 世持橋勾欄羽目	1軸1枚 1括	昭33. 3. 14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵 画 〃	絹本着色花鳥図 (殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図 (殷元良筆)	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図 (殷元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図 (朱雀年筆)	1巻	〃	〃	〃
工 芸 〃	三味線江戸与那 聞得大君御殿雲龍黃金簪	1挺 1本	昭33. 8. 15 昭33. 3. 14	県立博物館	沖縄県
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水平絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵文皿	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌栗絵菊文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧靈應寺鐘)	1口	昭60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘 (旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧天竜精舍鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧天尊御鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧一品種權現鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠 (旧波上宮朝鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧大安禪寺鐘)	〃	昭63. 1. 12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1脚	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1合	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1口	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘 (旧永福寺鐘)	1口	〃	〃	〃
典 籍 〃	評定所格護定本 中山世鑑 〃 中山世譜	6冊 19冊	昭31. 12. 14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
書 跡 〃	程順則の書 扁額「徳高」鄭元偉書	1巻 1架	昭42. 4. 11 平元. 9. 29	県立博物館 〃	沖縄県 〃
〃	扁額「凌雲」林麟焮書	1架	〃	〃	〃
古 文 書 〃	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49. 11. 11	県立博物館	沖縄県
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃
歴 史	安国山樹花木之記碑	1基	平元. 9. 29	県立博物館	沖縄県

## VII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁数)	内容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B5 (12)	1991年度に、寄贈、購入、収集等で当館に入った収蔵品を紹介する企画展の図録。
第14回移動博物館パンフレット	不定期	1,000	B5 (4)	西表島、大原で開催された移動博の展示内容を紹介。
沖縄県立博物館年報 No.24	定期	800	B5 (66)	前年度の当館の活動状況の報告。
沖縄のチョウ	不定期	1,000	B5 (39)	同名の企画展に関連する図録。沖縄でみられる様々なチョウを紹介。
壺屋陶工遺作展	不定期	1,000	B5 (73)	同名の企画展に関連する図録。壺屋の代表的陶工の遺作品を紹介。
アジアの祭りと芸能～仮面と音楽～	不定期	1,000	B5 (148)	同名の特別展に関連する図録。アジア各国、民族の祭りで用いられる仮面や楽器、衣装を紹介。
あわもり—その歴史と文化—	不定期	1,000	B5 (117)	同名の企画展に関連する図録。泡盛に関する資料や醸造道具について解説する。
沖縄県立博物館紀要 第18号	定期	1,000	B5 (60)	学芸員の調査研究報告書。
萩尾 俊章「沖縄における神酒と泡盛の諸相」 千木良芳範「伊良部島の真正クモ類について」 与那嶺一子「沖縄県立博物館所蔵紅型型紙の分類とその考察（二）」 大城 學「沖縄の草蓑神と仮面神」 津波古 智「資料紹介—壺屋と古典焼」				
城（グスク）～城に語らせたい 地域の歴史～	不定期	1,000	B5 (123)	生涯教育普及図書として沖縄のぐすくについて広くわかりやすく紹介する図書。
旧中城御殿関係資料集	不定期	300	A4 (122)	戦前まで当館は国王の世子が居住する屋敷の中城御殿であった。旧中城御殿に関する基礎資料集。
沖縄県立博物館ポスター	定期	1,000	B2	次年度の当館行事案内。
沖縄県立博物館リーフレット (和文・英文)	不定期	60,000	A4三つ折り	当館の展示内容等を紹介。
沖縄県立博物館行事案内リーフレット	定期	10,000	A4三つ折り	次年度の当館行事案内。
博物館利用の手引き	不定期	3,000	B5 (28)	博物館学習のための利用手引書。
博物館だより 第32号	定期	1,500	B5 (12)	当館の行事活動等を紹介する広報誌。
「沖縄の貝類～海からの贈りもの～」展チラシ	不定期	2,000	B5	同名特別展の案内チラシ。
「琉球王国～大交易時代とグスク～」展チラシ	不定期		B5	同名特別展の案内チラシ。

## VIII その他の活動

### 1 資料貸出

①考古：荻堂式土器 2点

期間：平成3年4月1日～平成4年3月31日 名称：日本文化のあけぼの  
主催：国立歴史民俗博物館 会場：国立歴史民俗博物館

②自然史：イリオモテヤマネコ剥製標本 1体

期間：平成3年7月10日～9月10日 名称：八重山諸島の自然展  
主催：伊良湖自然科学博物館／中日新聞社 会場：伊良湖自然科学博物館

③美術工芸：絵画資料（油絵）18点

期間：平成3年7月29日～9月4日 名称：沖縄の近代絵画展  
主催：本部町立博物館 会場：本部町立博物館

④考古／美術工芸／民俗：甕形土器他 23点

期間：平成3年9月28日～10月22日 名称：歴史をひらく・琉球文化秘宝展  
主催：歴史をひらく・琉球文化秘宝展実行委員会 会場：デパート三越

⑤美術工芸：漆器・染織資料 17件 25点

期間：平成3年10月21日～12月5日 名称：沖縄の雅—琉球王朝の美  
主催：沖縄の雅展実行委員会 会場：名古屋城

⑥美術工芸：地機他 3点

期間：平成3年10月30日～11月20日 名称：アジアの絆展  
主催：南風原文化センター 会場：南風原文化センター

⑦美術工芸：琉球切手原画 10点

期間：平成3年11月23日～11月24日 名称：全琉切手展  
主催：沖縄郵趣連盟 会場：沖縄東郵便局

⑧考古／歴史／美術工芸／民俗：市来式土器他 41点

期間：平成3年11月28日～平成4年2月25日 名称：海上の道—沖縄の歴史と文化—  
主催：東京国立博物館／読売新聞社 会場：東京国立博物館

⑨考古／歴史・美術工芸／民俗：市来式土器他 85点

期間：平成4年2月17日～4月20日 名称：海上の道  
主催：名古屋市博物館 会場：名古屋市博物館

### 2 燻蒸処理

当博物館では資料保存のため、毎年害虫駆除を目的とした燻蒸をおこなっている。平成3年度は、7月1日（月）から7月5日（木）まで、展示室を含めた大がかりな燻蒸を実施した。1階収蔵庫・地下収蔵庫・漆器収蔵庫の他に、各展示室と首里城正殿模型・篇額をメチルブロマイドによって燻蒸し、その他事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除をおこなった。毎年おこなわれている展示替えは、展示室が燻蒸されることから、事前におこなわれた。

### 3 沖縄県立博物館協議会

#### 第1回

日時： 平成3年9月17日（火）10：30～11：30

場所： 沖縄県立博物館  
議題： 1 辞令交付式  
2 議事  
ア、平成3年度博物館事業について  
イ、沖縄県立博物館建設委員会について  
ウ、その他

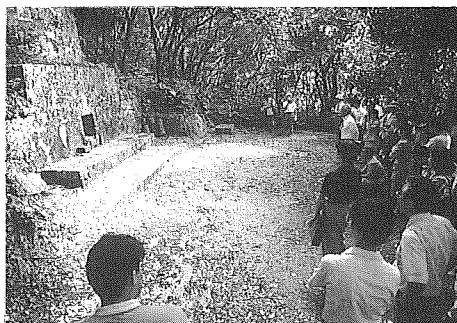
## 第2回

日時： 平成4年3月25日（水）10：30～12：30  
場所： 郵便貯金会館2階  
議題： 1 平成4年度博物館事業について  
2 報告事項  
沖縄県立博物館の新館建設事業について

## 4 沖縄県博物館協会

平成3年度の沖縄県博物館協会の総会並びに研修会は、5月24日（金）南風原文化センターにおいて開催された。31の館園・個人会員の参加があり、参加者数は90人であった。総会では、平成3年度事業、予算案、役員改選、次期総会開催地等について審議決定された。今回の研修会で特に出色であったのは、南風原町教育委員会製作の津嘉山の綱引きの記録映画であった。取り組みの開始から本番まで、関係する人たちの意欲と熱意がホットに伝わる記録映画で、会員一同ただ感激するばかりであった。午後からの現地研修会は、南風原文化センターを皮切りに南風原の織物工場、大里城跡、大城按司墓、玉城城跡、知念グスク、斎場御嶽と続く東マーメイのコースをバスでたどった。

秋の研修会は10月23日（水）に、沖縄市のこともの国において開催された。参加館園数は22、参加者数は個人会員も含めて87名であった。午前9時30分からの受付の後、会長あいさつで研修会の幕あきとなり、嘉陽栄憲沖縄市助役の歓迎あいさつに続いて、比嘉源和飼育係長の「イリオモテヤマネコの飼育観察から」、比嘉義友氏の「ほたる飼育の現状」、及び大谷勉氏の



東マーメイの現地研修会（大城按司墓）

「ビルマニシキヘビの増殖と利用」と題した報告をきいた。その後は自由に園内の見学となつたが、遊園地の様々な乗り物が好評で参加者一同しばし童心に返っていた。

今回の研修会には奄美歴史民族資料館から二人の特別参加もあり、いつなく華やいだ雰囲気の懇親会が印象に残る研修会であった。

## 5 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として発足した。その間会員も増加し、年々充実した活動を行ってきており、1991年度の会員名簿に登録されている会員は、次の通りとなっている。

会員 438 名、賛助会員 3 団体、準会員 11名（『博友』第 5 号 1991年 3月 31 日より）  
1991年 5月 30 日には平成 3 年度の総会が本館講堂で開催され予算及び事業計画等が決定されて  
平成三年度の活動が開始した。

事業内容と活動の状況は次のとおりである。

## 1、事業

- (1) 読谷歴史民俗資料館見学（6月29日）

資料館・美術館見学後曾根信一氏案内にて座喜味城見学会を実施した。

参加者：30人

- (2) 展示室解説会（7月13日）

當真嗣一氏を講師に第 1 室（歴史・考古コーナーの部）の解説会を実施した。

参加者：18人

- (3) 県外研修旅行（8月17日～19日）

種子島の旅台風のため中止

- (4) 離島めぐり（9月15日～16日）

伊是名島での研修旅行を実施した。

参加者：40人

（参加者多数のため二班に分けたが台風のため二班は中止）

- (5) 自然と文化財めぐり（10月26日～27日）

与那演習林内観察会・今帰仁城の見学と夜間の生物観察を実施した。

参加者：25人

- (6) 首里城周辺史跡めぐり（11月 9 日）

宮里朝光氏を講師に金城町の文化財めぐりを実施した。

参加者：51人

- (7) 文化キャラバン隊（1月18日～19日）

久高島の視察研修後離島振興総合センターにてイザイホーの16ミリフィルムを久高島の人々に上映会を実施

参加者：11人

- (8) 会員発表会（2月24日）

第 4 回会員発表会を実施した。発表者とテーマは次のとおりであった。

「私の目の高さから見た博物館と友の会」（石野 裕子氏）

「ボランティアと私」（平良 和子氏）

「沖縄戦を語る」（池原 秀光氏） 参加者：23人

- (9) ロード・ウォッチング（3月21日）

首里城工事現場一帯のロード・ウォッチングを実施した。 参加者：7人



韓国博物館巡りと歴史の旅－公山城（公州）

## 2、会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催しものの案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文章発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

## 3、博物館への援助活動

- スタンプ 3 個及びスタンプ台（10万円相当分）

## 4、会誌（博友）・会報（赤い瓦）の発行

## 5、ミュージアムショップの経営

出版物・テレホンカード・絵はがき・委託図書・フィルム・飲み物

「万国津梁の鐘」ミニチュア・などの販売サービス

## 6、その他

- 総会及び懇親会（1991年5月20日）

参加者：63人

- 新年会 （1992年1月13日）

参加者：123人

## 6 博物館実習

学芸員に関する履修科目として博物館実習 3 単位があるが、本館では例年10人前後の実習生を受け入れてきた。本年度は下記の 7 名の実習生にたいして全職員が各分野を分担して実地指導を行った。

### 1. 実習生

知名とも子（鹿児島女子大）、饒平名みゆき（同）、比嘉ゆりえ（同）、照屋由乃（同）、又吉譲（徳島文理大）、岡本裕美子（京都外語大）、久保奈弓（同）

### 2. 期間

平成3年7月17日～26日（10間）

### 3. 実習科目と担当者

- (1) 県立博物館の条例及び規則・職員組織（西平副館長）
- (2) 博物館の予算について（大村庶務課長）
- (3) 館内の施設・設備について（名嘉真技師）
- (4) 展示室案内、教育普及活動について、考古資料取扱・登録実習（当真教育普及課長）
- (5) 資料受入・分類・登録・原簿記載の実習、美術工芸資料取扱実習（与那嶺学芸員）
- (6) 歴史資料取扱実習（萩尾学芸員）
- (7) 展示計画・展示作業・特別展・企画展等について（大城学芸課長）
- (8) 自然史資料取扱・登録実習（千木良指導主事・上門指導主事）
- (9) 資料の保存と修理（津波古指導主事）
- (10) 民俗資料取扱・登録実習（大城学芸員）

## IX 新館建設事業

### 1. 新館建設事業の概要

県立博物館の現施設は老朽化と狭隘化がすすみ、国際化・情報化・生涯学習時代を迎える県民のニーズに対応した博物館活動を十分展開することができないので、県教育委員会では、新館建設検討委員会を設けて新館建設構想について諮問、平成3年3月、「沖縄県立博物館基本構想」の答申を得た。

答申を受けて、県教育委員会は平成3年度の重点施策に「新館建設事業」をとりあげ、9月1日付で「新館建設委員会」を発足させた。同委員会は平成5年度までに「基本計画」を策定することを目標に調査と検討を開始した。

新館は延床面積約18,000m<sup>2</sup>の規模で、那覇新都心地区に建設され、平成12年（西暦2000年）に21世紀型の沖縄らしい総合博物館として開館することをめざしている。

### 2. 沖縄県立博物館新館建設委員会

#### (1) 第1回委員会

日 時：平成3年9月13日

会 場：教育庁会議室

議 題：辞令交付式および第1回委員会

鈴木雅夫以下14名の委員（学識経験者9名、行政関係者5名）が委嘱され、第1回委員会で会長に鈴木雅夫琉球大学教授、副会長に比嘉政夫琉球大学教授が選出された。

#### (2) 県外先進博物館視察

日 時：平成3年11月28日～30日

視察先：徳島県立博物館、徳島県立美術館

視察員：比嘉政夫、仲田秋一、渡名喜明、大村重信、嘉手納是敏、福島駿介

#### (3) 県外先進博物館視察

日 時：平成3年12月3日～5日

視察先：福岡市博物館、福岡市美術館

視察員：鈴木雅夫、大村重信、屋田直勝、池田栄史、仲地哲夫

#### (4) 第2回委員会および現施設視察

日 時：平成4年2月20日

会 場：県立博物館

議 題：県立博物館の現施設を視察したあと、第2回委員会をひらいて意見交換。

#### (5) 第3回委員会および敷地予定地の現状視察

日 時：平成4年3月24日

会 場：沖縄東急ホテル

議 題：新館建設予定地の現場を視察したあと、第3回委員会を開いて意見交換。

# X 日 誌 抄

(平成3年4月～平成4年3月)

- 4月20日 国立民族学博物館教授佐々木高明氏、文化講座200回記念講演で来館  
5月11日 村井仁衆議院議員一行来館  
5月19日 中国福州市副市長一行来館  
8月2日 大内啓伍民社党委員長来館  
  5日 宮内庁赤坂御所佐藤和寿侍従来館  
  8日 文部省初任者研修一行来館  
  27日 都道府県教育長協議会第3部会来館  
  29日 自治大臣官房審議官谷口恒夫氏来館  
  31日 紀宮清子内親王殿下来館  
9月6日 山口県議会文教警察委員会一行来館  
  9日 浜元寛得氏夫妻来館  
  17日 福岡市美術館長副島三喜男氏来館  
  30日 東京国立博物館学芸部長奥村秀雄氏来館  
  31日 栃木県議会文教委員会一行来館  
11月14日 北海道議会文教委員会一行来館  
  16日 埼玉県教育委員会委員一行来館  
  〃日 沖縄開発庁振興第4課長佐藤文友氏来館  
  27日 京都大学文学部博物館長大山喬平氏来館  
  29日 學習院大学史料館長来館  
1月21日 彦根城博物館長井伊正広氏来館  
2月16日 沖縄開発庁事務次官藤田康男氏来館  
  25日 國學院大学博物館実習生一行来館  
3月19日 日本学術振興会理事長大崎仁氏来館  
  〃日 タイ国考古美術局アマラ・ツースーツヤー氏来館  
  26日 メキシコ大使館モラレス公使来館

# XI 関係法規抄録

## ○博物館法（昭和26・12・<sup>1</sup>） (法律第285号)

[最近改正] 昭和61年・12・4・法律第93号

### 第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、美術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
- 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する第一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- 9 他の博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学校又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

**第5条** 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目的単位を修得したもの
  - 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目的単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
  - 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

**第6条** 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

**第7条** 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

**第8条** 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

**第9条** 削除

## 第2章 登録

(登録)

**第10条** 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

**第11条** 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
  - 2 名称
  - 3 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
  - 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

**第12条** 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に

掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

- 2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当っては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えるなければならない。
- 3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の業務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

### 第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

- 2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

**第21条** 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

**第22条** 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。  
(入館料等)

**第23条** 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。  
(博物館の補助)

**第24条** 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

#### **第25条 削除**

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

**第26条** 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- 1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。
- 2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- 3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- 4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

### **第4章 私立博物館**

(都道府県の教育委員会との関係)

**第27条** 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

**第28条** 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

### **第5章 雜則**

(博物館に相当する施設)

**第29条** 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣が、他の施設にあたっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

#### **附 則**

(施行期日)

- 1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。  
(経過規定)
- 2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令（昭和27年3月20日）  
（政令第47号）

最近改正 昭和34年4月30日政令第157号

（政令で定める法人）

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

（施設、設備に要する経費の範囲）

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年5月15日）  
（条例第24号）

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10号及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

氏名	位置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日）  
（教育委員会規則第2号）

最終改正 平成元年6月30日教育委員会規則第7号

(趣旨)

**第1条** この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

**第4条** 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

(2) 公印の管守に関すること。

(3) 施設設備の管理に関すること。

(4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。

(5) 博物館協議会に関すること。

(6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

(1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。

(2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。

(3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。

(4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

(1) 博物館資料の利用相談に関すること

(2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。

(3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日）  
(教育委員会規則第13号)

最終改正 平成元年3月31日教育委員会規則第4号

(趣旨)

**第1条** この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

**第2条** 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

**第3条** 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。

(施設設備の亡失)

**第4条** 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

**第5条** 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これを替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書を（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

**第18条** 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

（原状回復の義務）

**第19条** 使用者は、施設の使用を終ったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならぬ。

（損害の賠償）

**第20条** 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

（報告）

**第21条** 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

（補則）

**第22条** この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

## 附 則

この規則は、公布の日から施行する。

## 第1号様式（第11条関係）

## 第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	平成年月日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
住 所	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
1 種 別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

受 諸 書	平成年月日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
平成年月日	平成年月日から 平成年月日まで
沖縄県立博物館長	

博物館資料寄託申込書	平成年月日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
住 所	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。	
1 種 別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 寄託期間	平成年月日から 平成年月日まで
8 申込者	住 所
9 氏 名	

## 第3号様式（第11条関係）

## 第4号様式（第18条関係）

博物館資料寄託承認書	
平成 年 月 日	殿
沖縄県立博物館長	
記	
平成 年 月 日	日付け申請のあつた博物館の寄託については、下記により受託します。
1 種別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
7 備考	

博物館施設使用許可申請書	
平成 年 月 日	印
沖縄県立博物館長 殿	
申請者氏名	
電話	
下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。	
記	
1 使用者	団体名 _____ 及び 代表者名 _____ (印) 職業( _____ )
2 使用目的	住所 _____ 電話 _____
3 使用する施設：1 ホール	2 臨時陳列室
4 使用する日時及び期間	自：平成 年 月 日 午 時 分 ( ) 至：平成 年 月 日 午 時 分 日間
5 予定参加人員	人
6 その他必要な資料（プログラム等）	
7 許可書	月 日付申請の( ) 使用の件、申請どおり許可します。 平成 年 月 日 沖縄県立博物館長 (印)

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）  
（教育委員会規則第29号）

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

（委員）

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

（任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会員及び副会長）

第5条 協議会に会員及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

（会議）

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会員の決するところによる。

（費用弁償）

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

（庶務）

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

（雑則）

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日）  
（条例 第37号）

（趣旨）

最終改正 平成元年3月31日条例第22号

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規程に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

（使用料の徴収）

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を越えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料)

(第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

**沖縄県立博物館年報 No.25**

1992年7月10日 発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1の1

TEL : 098-884-2243

886-4353

印 刷 (株) 南 西 印 刷

住 所 〒903 那覇市首里石嶺町1-127

TEL : 098-884-4321

沖縄県立博物館

## 1992年度 沖縄県立博物館年間行事一覧

### ○特別展

- 古代メキシコ至宝展 ..... 1992年6月20日(土)～7月26日(日)  
沖縄の貝類～海からの贈りもの～ ..... 8月1日(土)～8月30日(日)  
復帰20周年記念  
琉球王国～大交易時代とグスク～ ..... 10月27日(火)～12月20日(日)  
尚家継承琉球王朝文化遺産展 ..... 1993年1月5日(火)～2月14日(日)

### ○企画展

- 新収蔵品展 ..... 1992年5月12日(火)～5月24日(日)  
謝花雲石展 ..... 1993年2月23日(火)～3月14日(日)

### ○第15回移動博物館—竹富町・波照間島— ..... 1993年1月23日(土)～1月24日(日)

### ○博物館文化講座

- 第212回 近世琉球の王廟祭祀について ..... 1992年4月20日(土)  
講師 豊見山 和行(琉球大学教育学部助教授)  
第213回 5・15記念：復帰20年をふり返る ..... 5月16日(土)  
講師 大城 将保(当館学芸課長)  
第214回 子供の遊びと文化 ..... 6月6日(土)  
講師 前川 守夫(前原高等学校教諭)  
第215回 特別文化講座 アメリカ大陸の古代文明～メキシコとペルー ..... 6月27日(土)  
講師 大貫 良夫(東京大学教授)  
第216回 中城御殿の御道具 ..... 7月18日(土)  
講師 真栄平 房敬(那覇市文化財調査審議委員)  
第217回 特別文化講座 貝のはなし ..... 8月15日(土)  
講師 波部 忠重(元国立科学博物館動物研究室長)  
第218回 イリオモテヤマネコの話 ..... 9月19日(土)  
講師 比嘉 源和(沖縄こどもの国飼育係長)  
第219回 ハングルととうがらし ..... 10月17日(土)  
講師 津波 高志(琉球大学助教授)  
第220回 グスクを歩く ..... 12月19日(土)  
講師 当真 嗣一(当館教育普及課長)  
第221回 沖縄の染色 ..... 1993年1月16日(土)  
講師 伊元 幸春(沖縄県工芸指導所主任研究員)  
第222回 土器の話 ..... 2月13日(土)  
講師 島袋 洋(沖縄県教育庁文化課専門員)  
第223回 展示解説会「雲石翁について」 ..... 3月6日(土)  
講師 曽根 信一(沖縄県博物館協会理事)

### ○特別講演

- 異文明とのあい～九州各地に文明交流のあとをたどる～ ..... 11月7日(土)  
「琉球王国～大交易時代とグスク～」フォーラム ..... 11月28日(土)

### ○夏休み「歩く・見る・作る」教室

- ①史跡めぐり ..... 1992年7月25日(土)  
②ネイチャー・ゲーム ..... 8月9日(日)  
③ホームビデオの作りかた ..... 8月23日(日)

持出